

小規模企業景気動向調査 [2026年8月期調査]**～需要回復の動きがみられるも、人手不足とコスト高が重荷となる小規模企業景況～****＜産業全体＞**

8月期の産業全体の景況は、売上額DI・採算DI・資金繰りDI・業況DIがいずれも小幅に改善となった。夏休みやお盆の需要増加により、観光関連を中心に小売業や旅館業で売上回復の動きが見られる一方、人手不足による受注制限や機会損失が見られるほか、最低賃金の引き上げに伴う人件費負担への懸念も強く、今後の経営環境を不安視する声も多く聞かれた。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		1.9	4.3	2.4	▲ 2.9
採算	▲	23.2	▲ 20.1	3.1	▲ 2.9
資金繰り	▲	18.9	▲ 16.4	2.5	▲ 2.7
業況	▲	20.6	▲ 17.5	3.1	▲ 4.5

＜製造業(食料品、繊維、機械・金属)＞受注は堅調も、コスト上昇が重荷となる製造業

製造業は、売上額DIが大幅に改善、採算DI・業況DIは小幅に改善、資金繰りDIはわずかに改善となった。機械・金属関連では引き続き半導体関連需要が好調である一方、食料品関連を中心に原材料費やエネルギー価格の高騰が続いており、価格転嫁が追いつかず収益を圧迫している。また、業種を問わず人手不足や人件費の上昇も経営負担となっており、コスト上昇への対応が引き続き課題となっている。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		4.3	9.7	5.4	3.3
採算	▲	22.1	▲ 18.3	3.8	1.5
資金繰り	▲	16.9	▲ 15.0	1.9	1.5
業況	▲	16.9	▲ 14.4	2.5	2.7

＜建設業＞受注は底堅いも、資材高騰と人手不足が重荷となる建設業

建設業は、採算DI・資金繰りDI・業況DIが大幅に改善、売上額DIは小幅に改善となった。中東情勢による資材供給の混乱は緩和傾向にあり、公共工事や修繕需要を背景に受注は底堅く推移している。一方で、資材価格や人件費の高騰が利益を圧迫しているほか、人手不足や猛暑、天候不順による工期の遅れも重なり、採算確保や先行きを不安視する声が多くみられた。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		0.2	3.8	3.6	▲ 5.3
採算	▲	28.8	▲ 22.8	6.0	▲ 6.6
資金繰り	▲	26.3	▲ 20.7	5.6	▲ 7.6
業況	▲	26.7	▲ 21.6	5.1	▲ 11.1

＜小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)＞需要回復の動きがみられるも、価格転嫁に苦慮する小売業

小売業は、売上額DI・採算DI・業況DIが小幅に改善、資金繰りDIはわずかに改善となった。お盆需要や観光需要に加え、飲料やエアコンなどの季節需要が下支えとなり、食料品や耐久消費財を中心に売上回復の動きがみられた。一方で、仕入価格の上昇や消費者の節約志向が続いており、収益確保に苦慮する声が多く聞かれた。顧客離れへの懸念から十分な価格転嫁が難しいケースもあり、厳しい経営環境が続いている。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額	▲	0.1	3.0	3.1	▲ 2.2
採算	▲	25.6	▲ 21.3	4.3	0.6
資金繰り	▲	18.4	▲ 17.0	1.4	▲ 0.9
業況	▲	22.7	▲ 19.9	2.8	▲ 1.8

＜サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)＞観光需要が下支えするも、コスト増が重荷となるサービス業

サービス業は、売上額DIは小幅に低下、採算DIはわずかに低下、業況DI、資金繰りDIがわずかに改善となった。お盆や夏休みの観光需要、インバウンド需要を背景に、旅館業を中心に利用客の増加がみられた。一方で、天候不順や災害の影響により観光需要が伸び悩む地域もあり、地域間で差がみられる。加えて、エネルギー価格や人件費の上昇が収益を圧迫しているほか、人手不足も深刻化しており、先行きを不安視する声が多く聞かれた。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		3.2	0.9	▲ 2.3	▲ 7.4
採算	▲	16.3	▲ 18.0	▲ 1.7	▲ 7.2
資金繰り	▲	14.2	▲ 13.1	1.1	▲ 4.1
業況	▲	16.0	▲ 14.3	1.7	▲ 8.2

調査概要

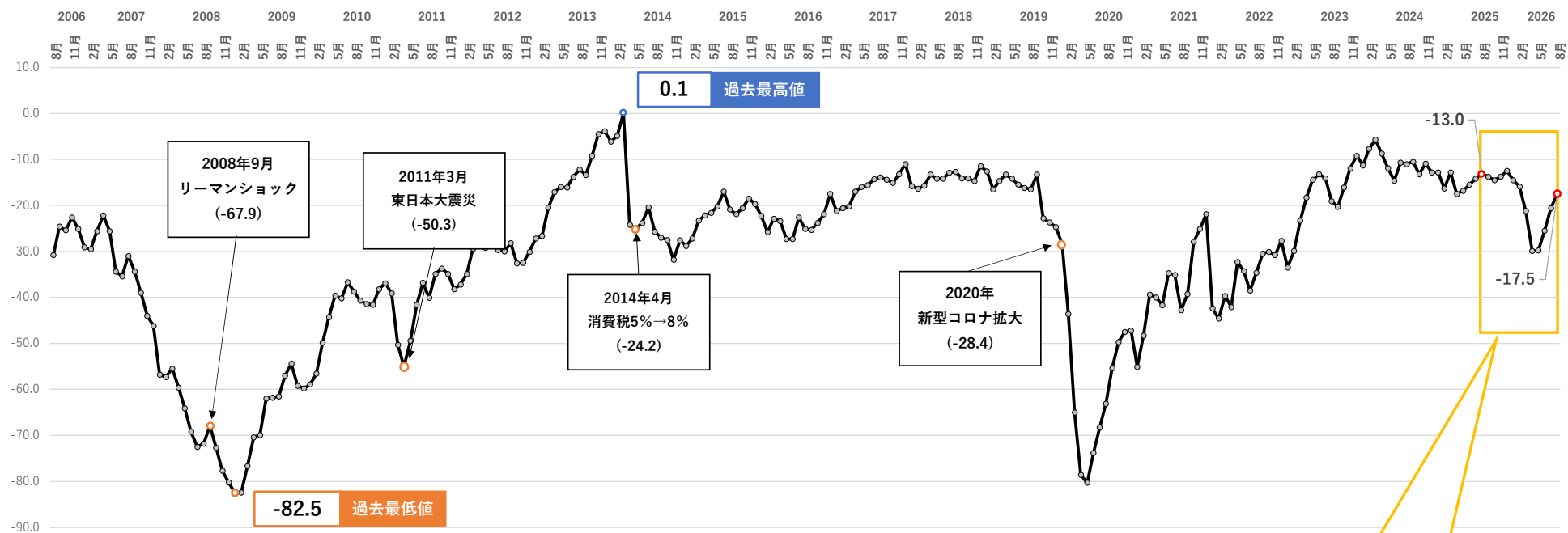
・調査対象：全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数:241/回答率 79.5%)

・調査時点：2026年8月末

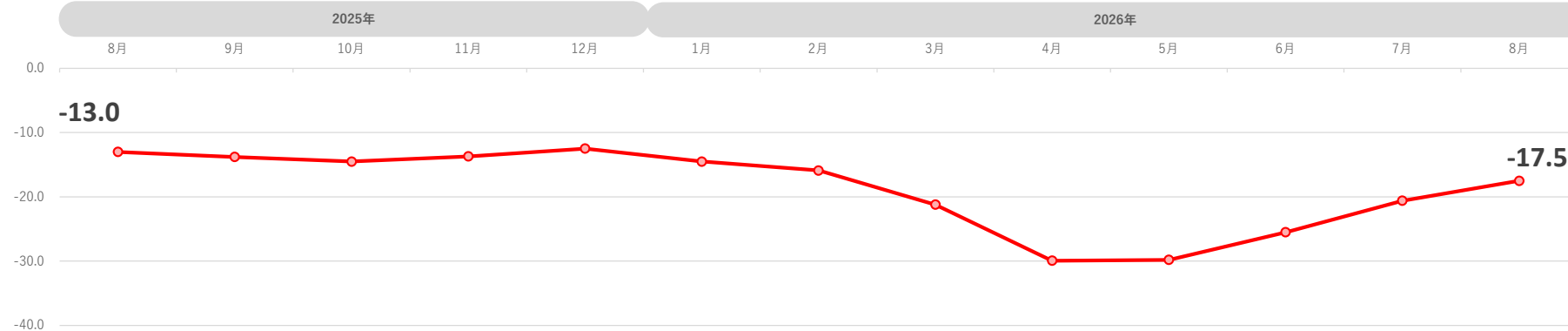
・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去20年のトレンド～



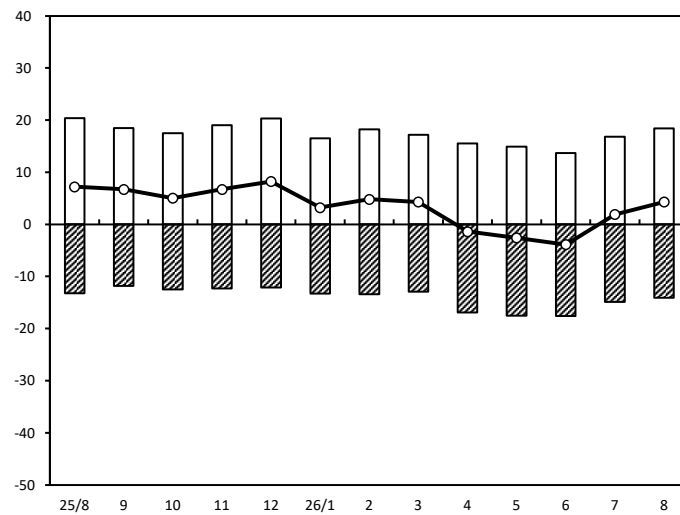
産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～



小規模企業景気動向調査(2026年8月期)

産業全体(前年同月比)

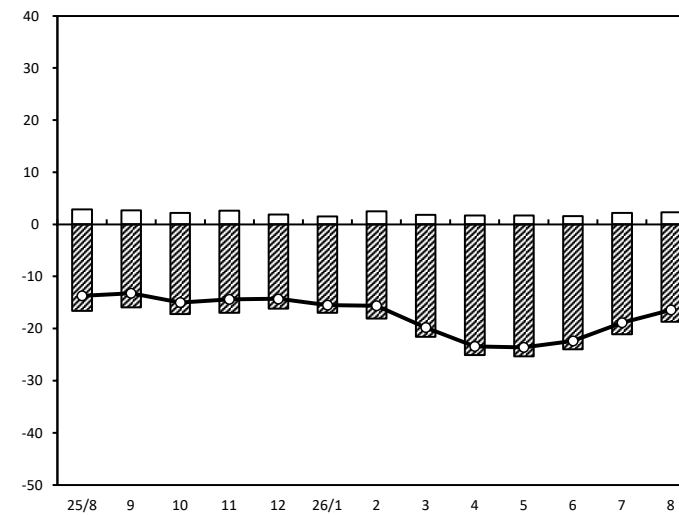
売上額



年/月	増加	減少	DI
25/8	20.4	-13.2	7.2
9	18.5	-11.8	6.7
10	17.5	-12.5	5.0
11	19.0	-12.3	6.7
12	20.3	-12.1	8.2
26/1	16.5	-13.3	3.2
2	18.2	-13.4	4.8
3	17.2	-12.9	4.3
4	15.5	-16.9	-1.4
5	14.9	-17.5	-2.6
6	13.7	-17.6	-3.9
7	16.8	-14.9	1.9
8	18.4	-14.1	4.3

(年月)

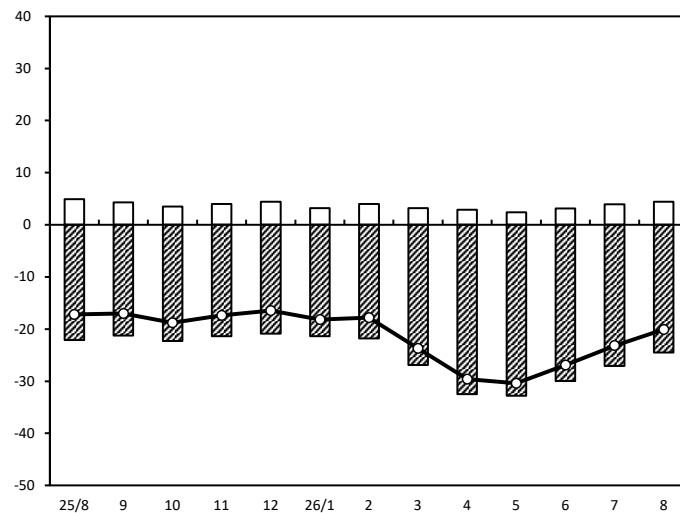
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
25/8	2.9	-16.6	-13.7
9	2.7	-15.9	-13.2
10	2.2	-17.2	-15.0
11	2.6	-17.0	-14.4
12	1.9	-16.2	-14.3
26/1	1.5	-17.0	-15.5
2	2.5	-18.1	-15.6
3	1.8	-21.6	-19.8
4	1.7	-25.1	-23.4
5	1.7	-25.3	-23.6
6	1.6	-24.0	-22.4
7	2.2	-21.1	-18.9
8	2.3	-18.7	-16.4

(年月)

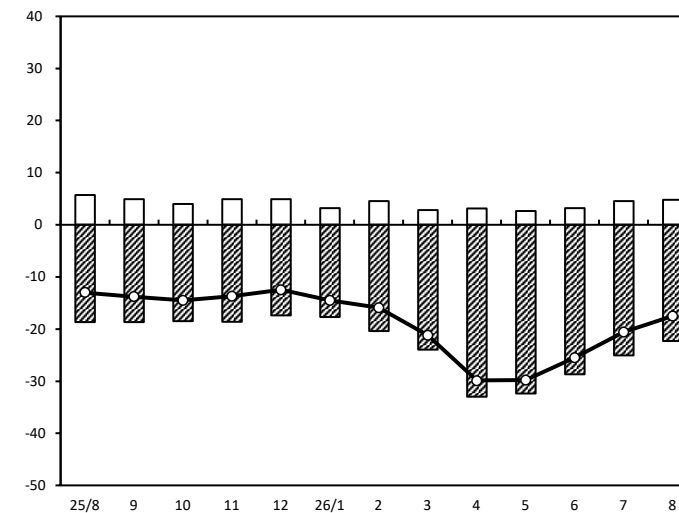
採算



年/月	増加	減少	DI
25/8	4.9	-22.1	-17.2
9	4.3	-21.3	-17.0
10	3.5	-22.3	-18.8
11	4.0	-21.4	-17.4
12	4.4	-20.9	-16.5
26/1	3.2	-21.4	-18.2
2	4.0	-21.8	-17.8
3	3.2	-26.9	-23.7
4	2.9	-32.5	-29.6
5	2.4	-32.8	-30.4
6	3.1	-30.0	-26.9
7	3.9	-27.1	-23.2
8	4.4	-24.5	-20.1

(年月)

業界の業況

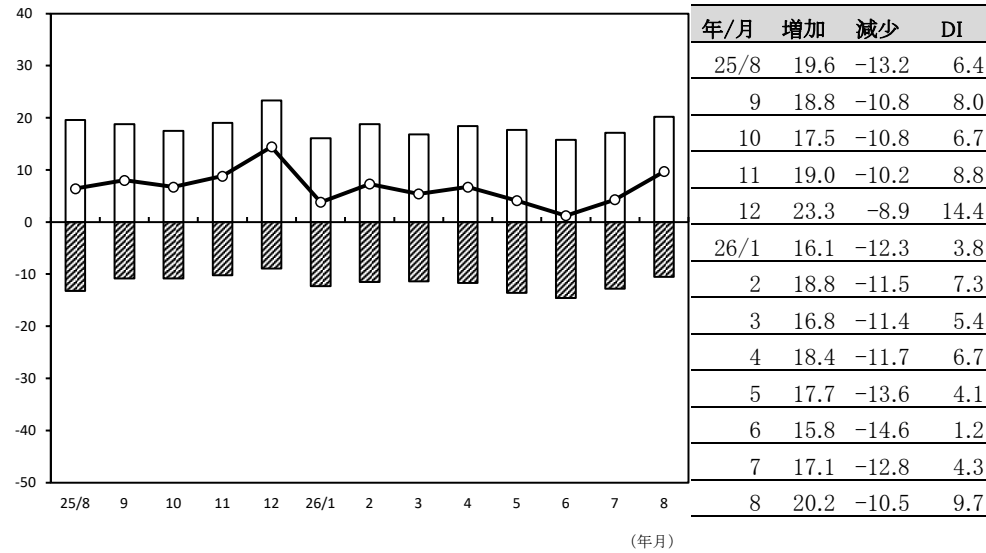


年/月	増加	減少	DI
25/8	5.7	-18.7	-13.0
9	4.9	-18.7	-13.8
10	4.0	-18.5	-14.5
11	4.9	-18.6	-13.7
12	4.9	-17.4	-12.5
26/1	3.2	-17.7	-14.5
2	4.5	-20.4	-15.9
3	2.8	-24.0	-21.2
4	3.1	-33.0	-29.9
5	2.6	-32.4	-29.8
6	3.2	-28.7	-25.5
7	4.5	-25.1	-20.6
8	4.8	-22.3	-17.5

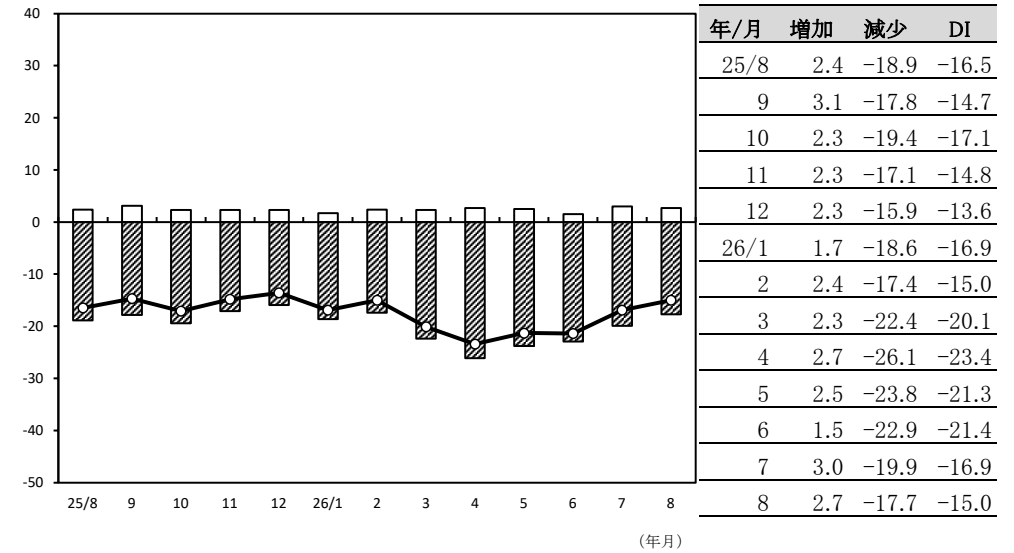
(年月)

製 造 業(前年同月比)

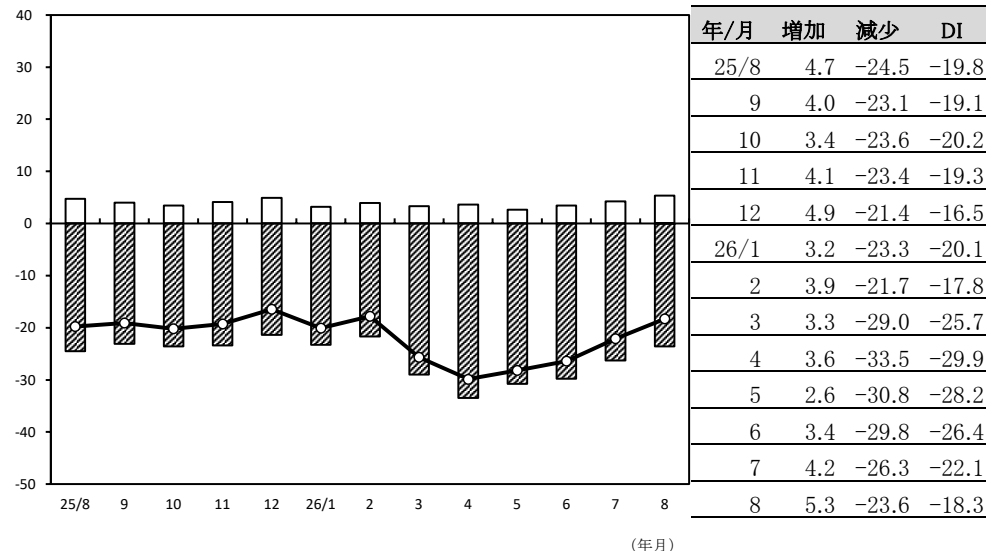
売上額



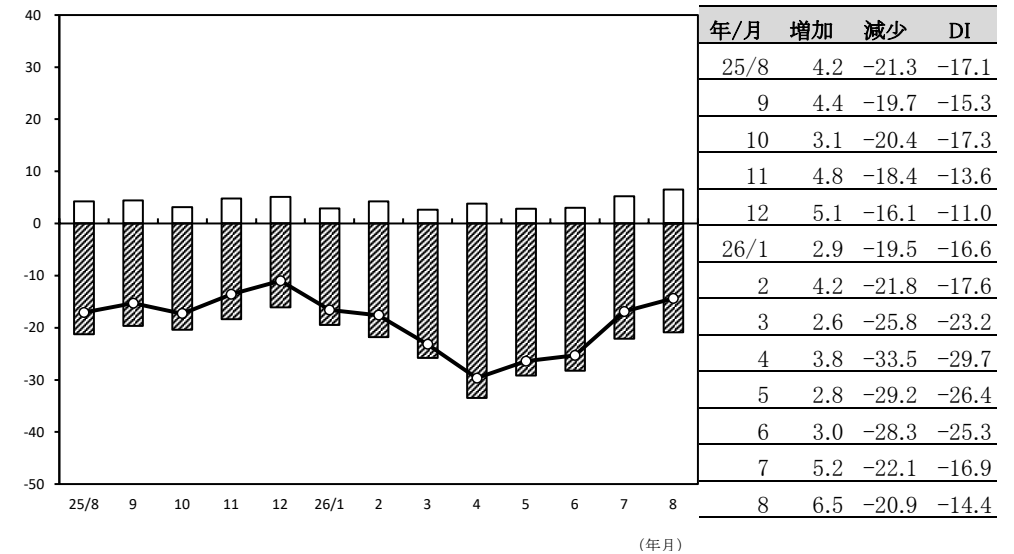
資金繰り



採算

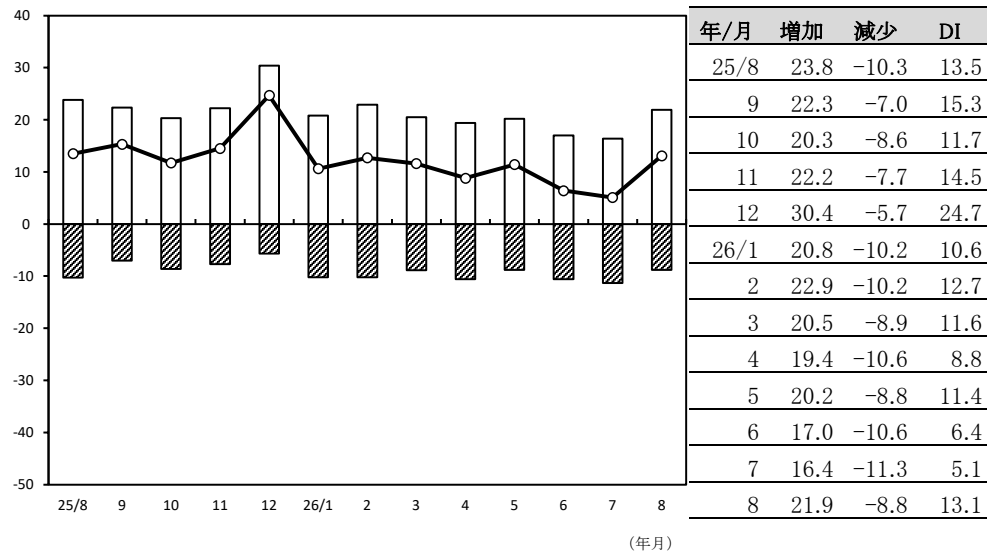


業界の業況

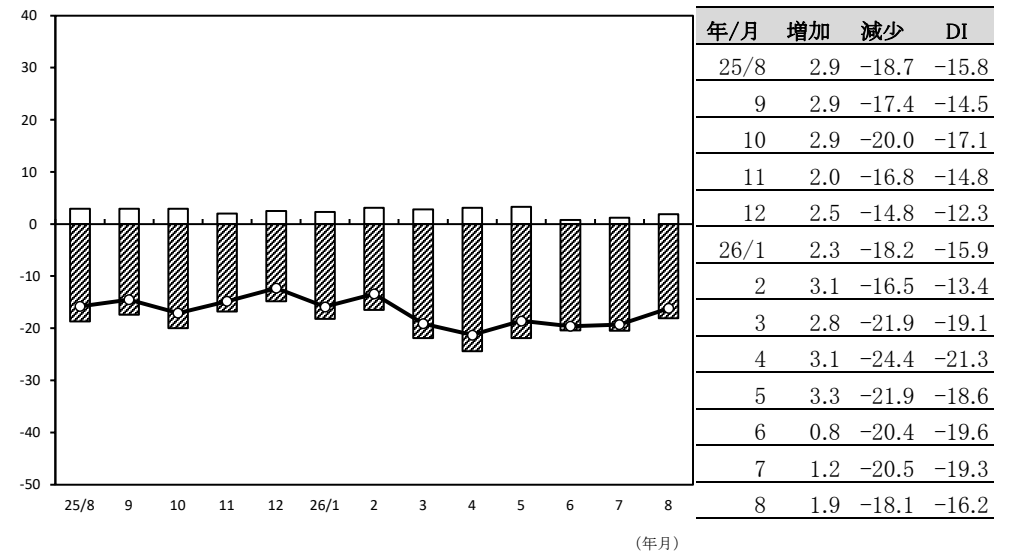


製 造 業【食料品】（前年同月比）

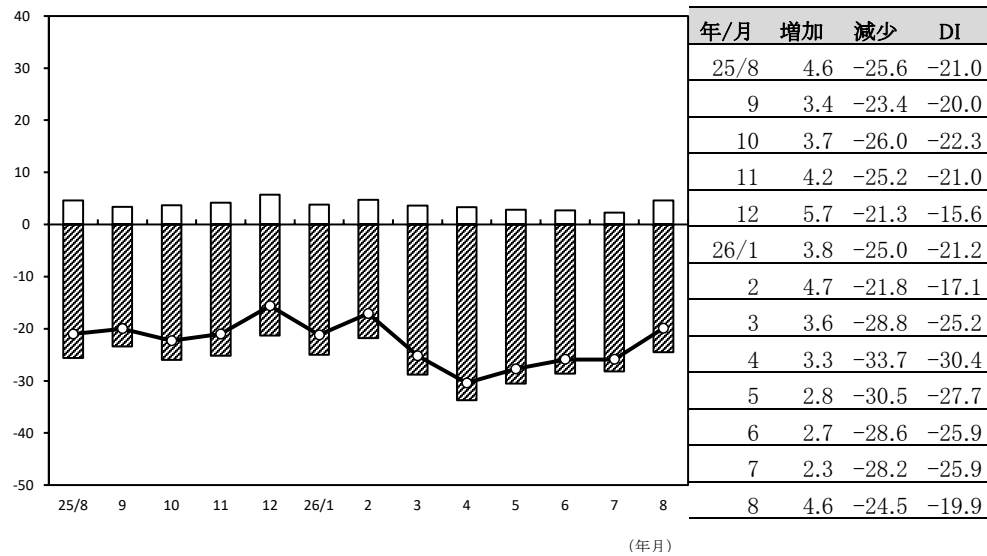
売上額



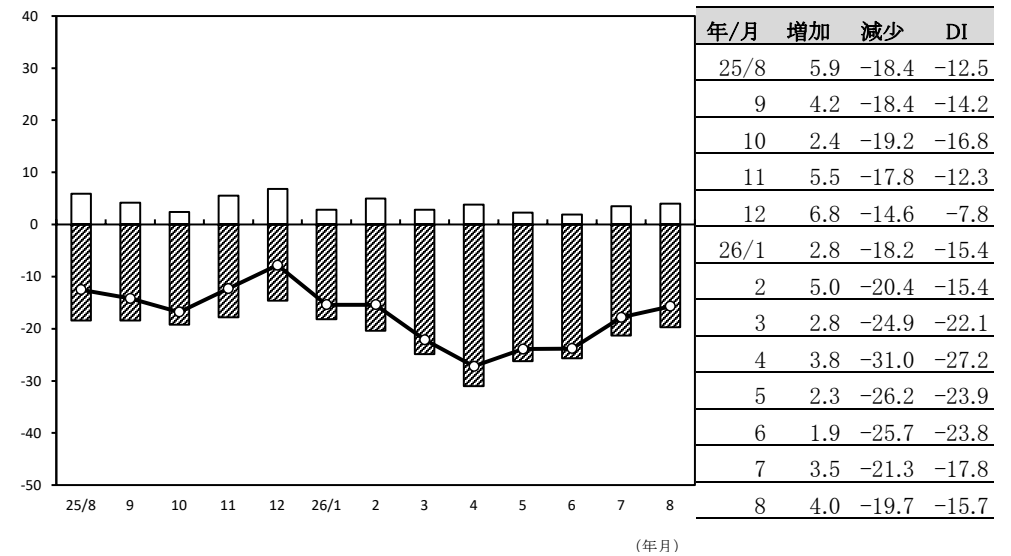
資金繰り



採算

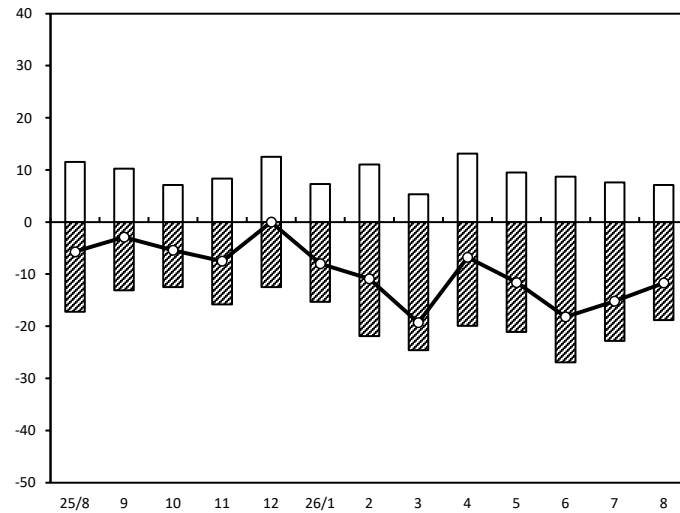


業界の業況



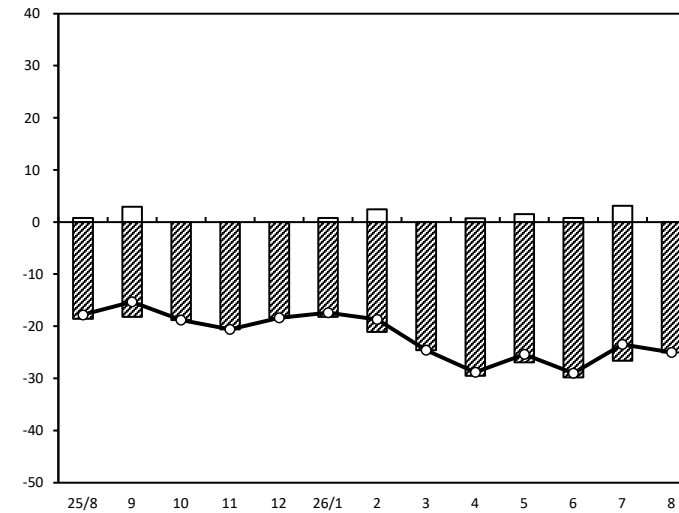
製 造 業【繊維】（前年同月比）

売上額



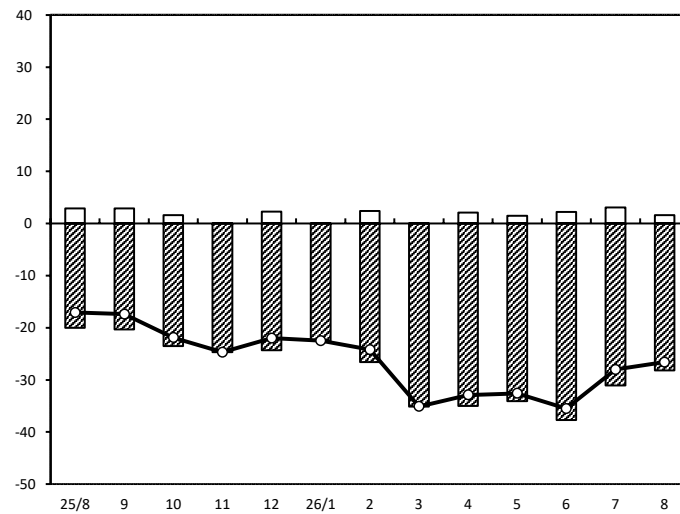
(年月)

資金繰り



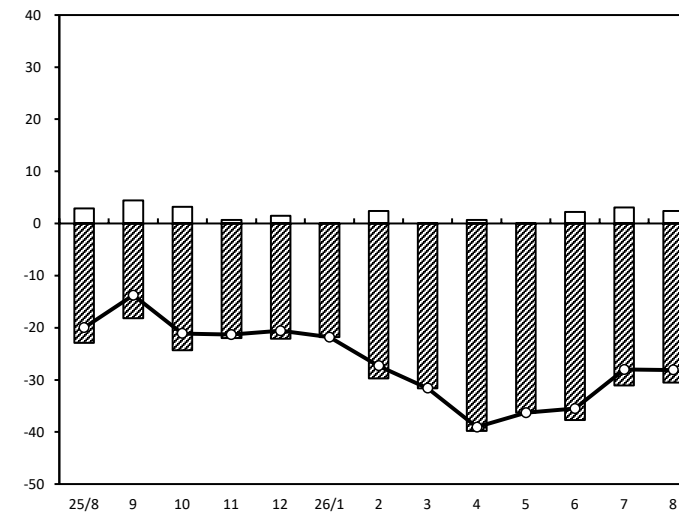
(年月)

採算



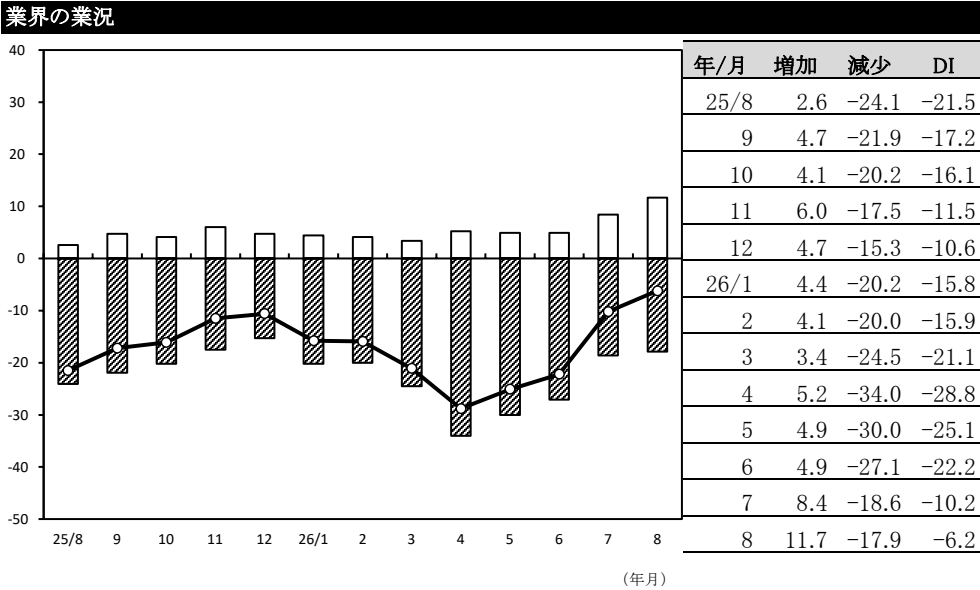
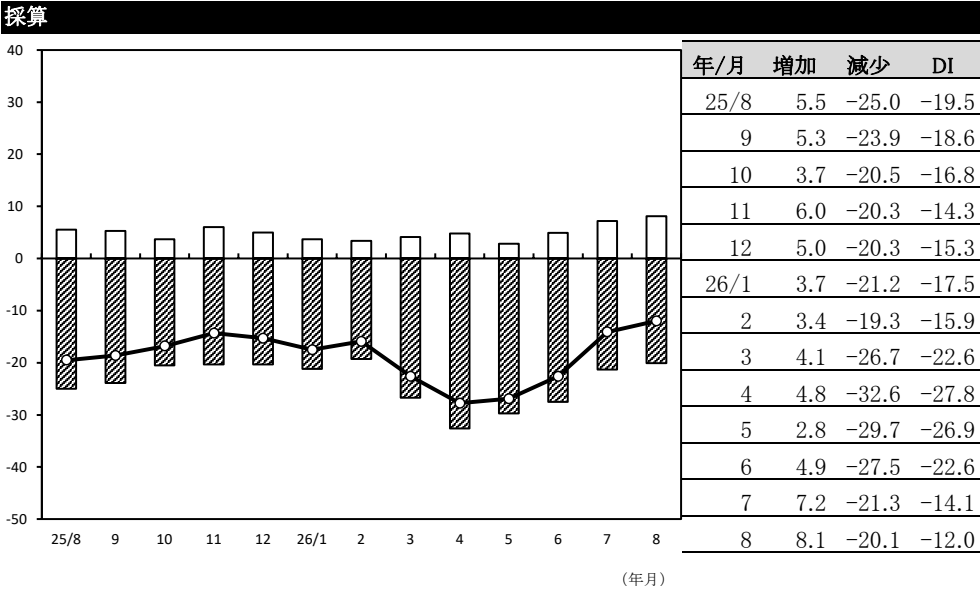
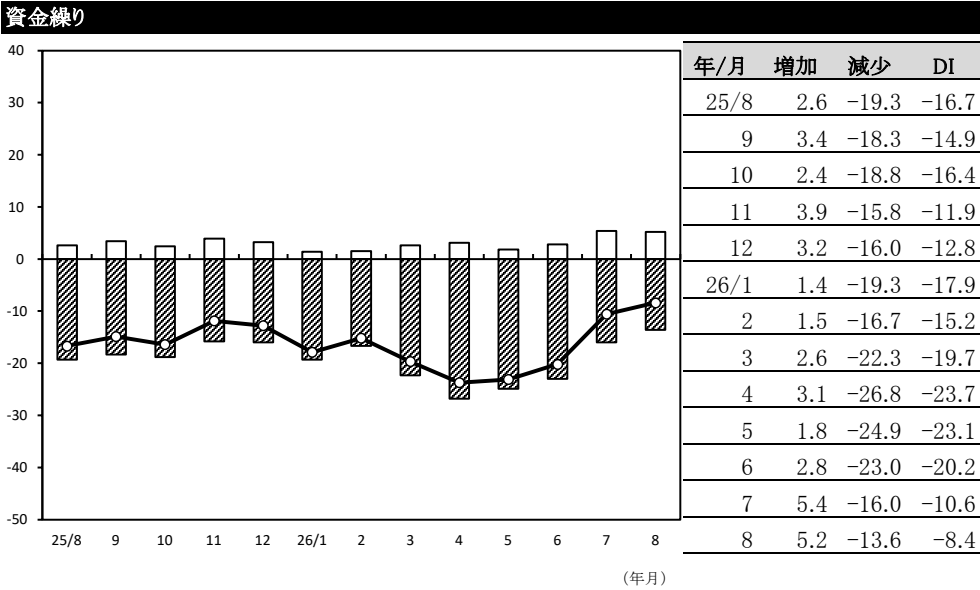
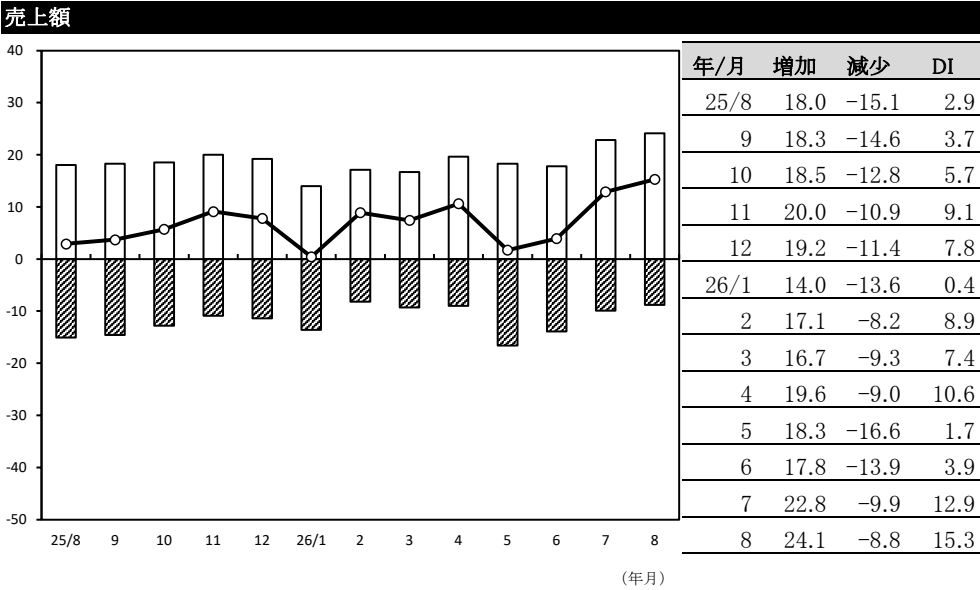
(年月)

業界の業況



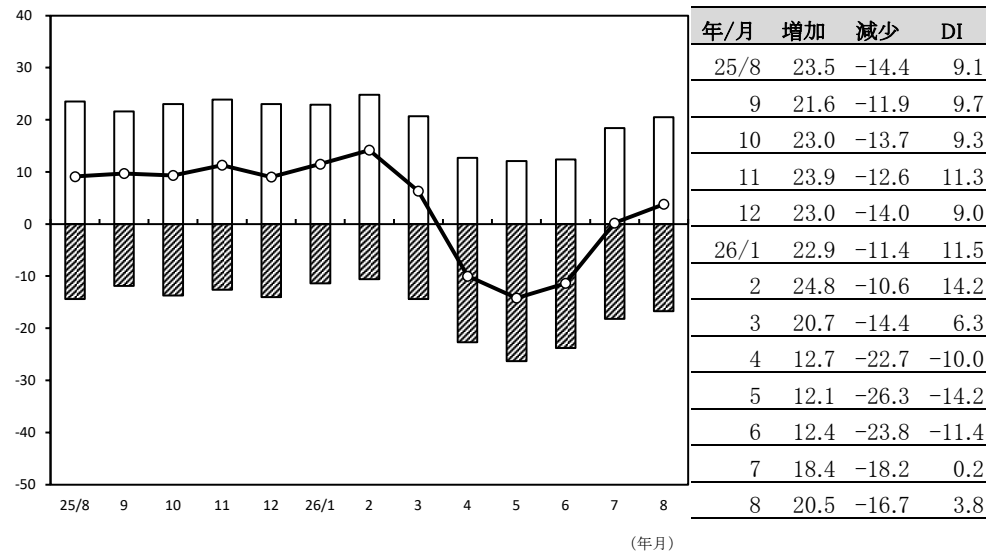
(年月)

製 造 業【機械・金属】（前年同月比）

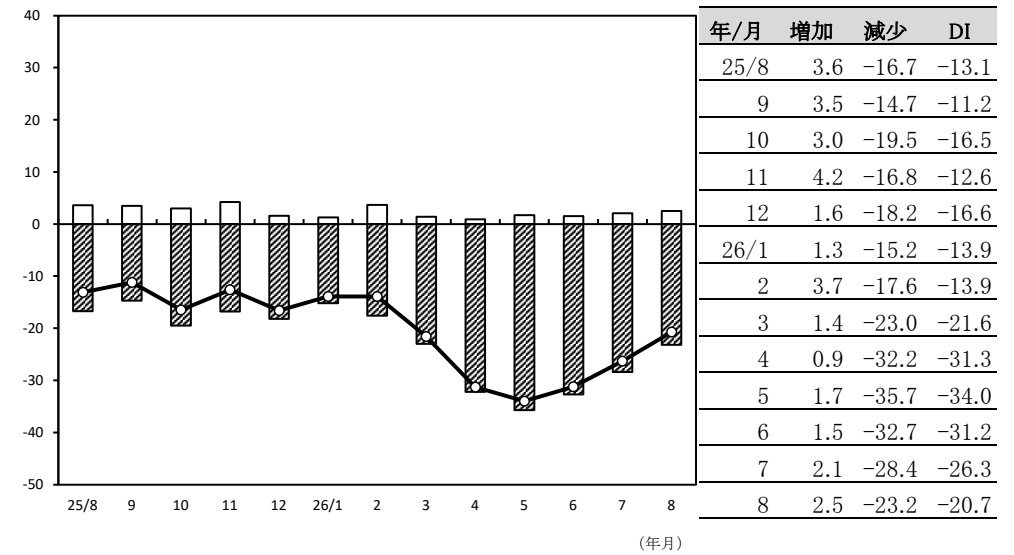


建 設 業(前年同月比)

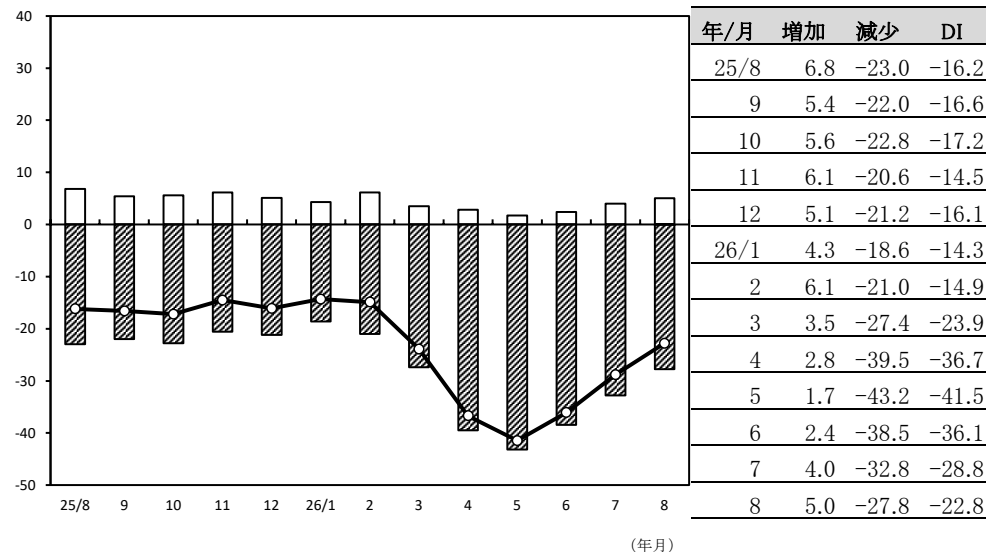
売上額



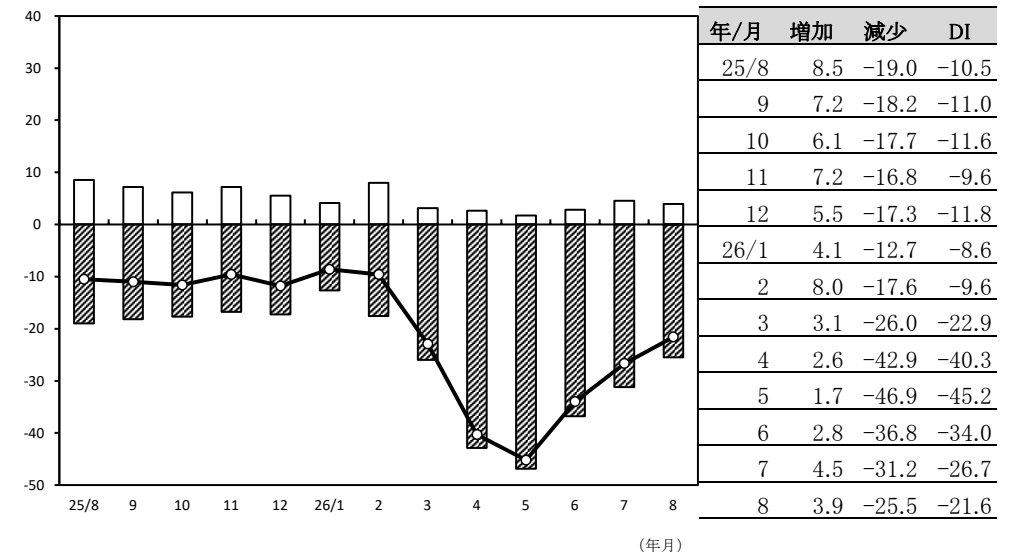
資金繰り



採算

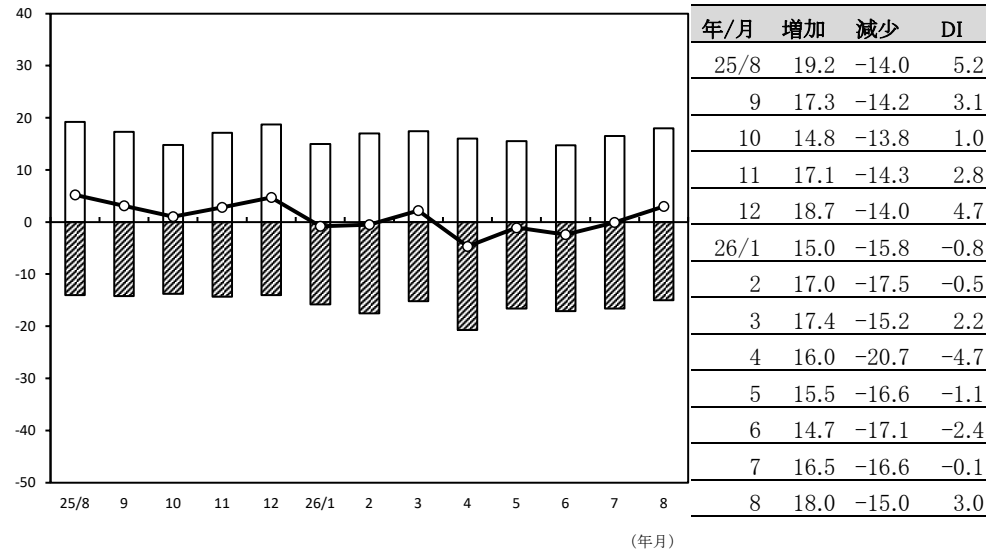


業界の業況

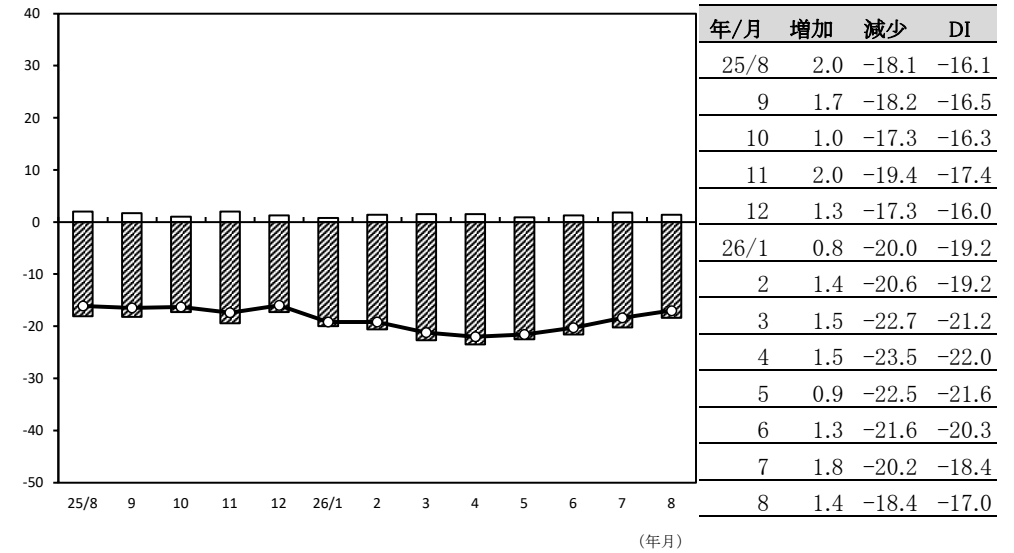


小 売 業(前年同月比)

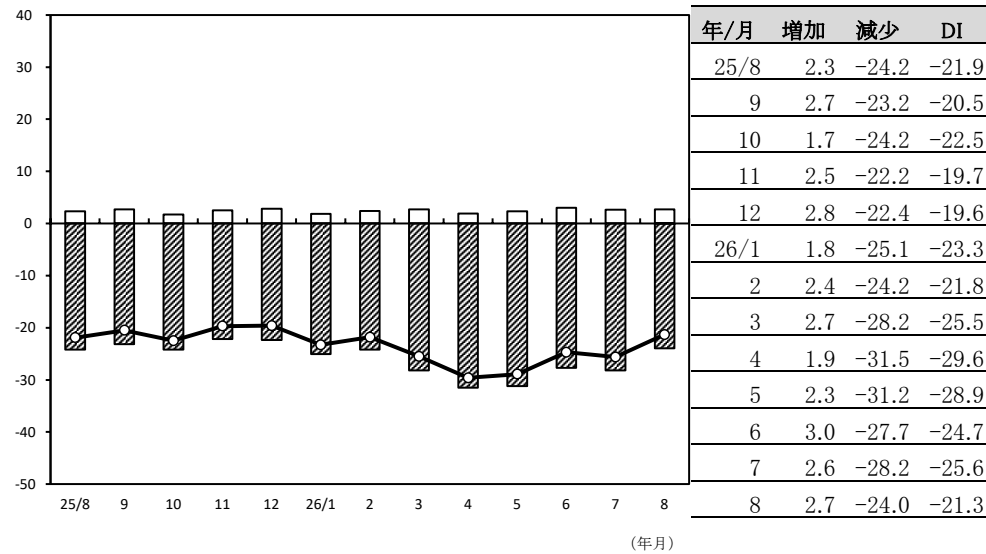
売上額



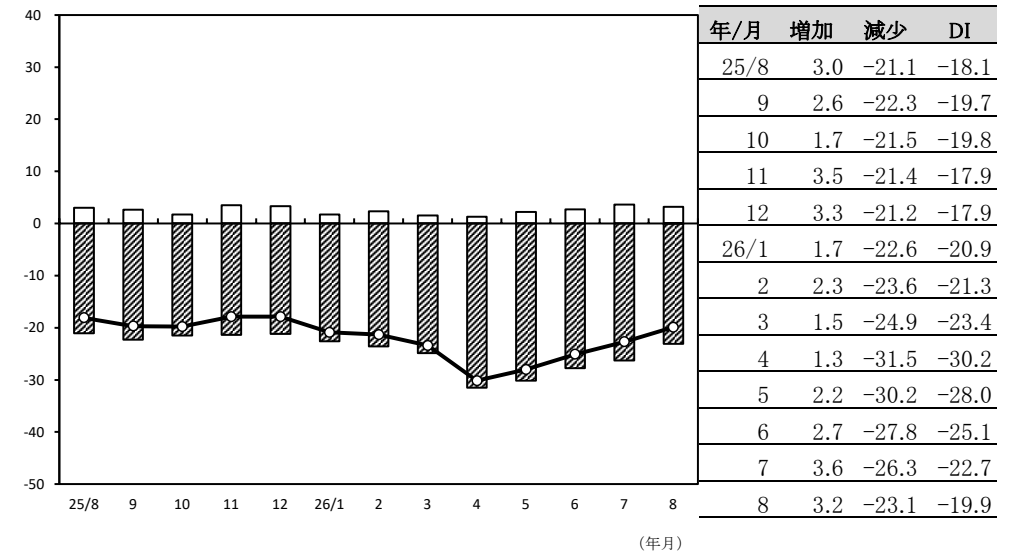
資金繰り



採算

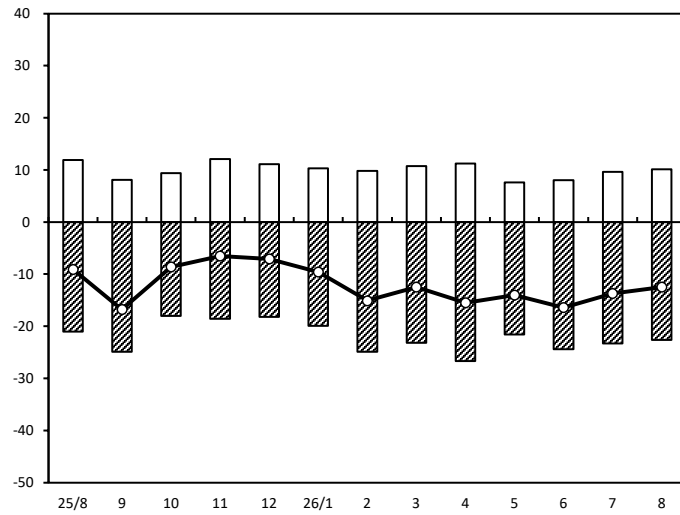


業界の業況



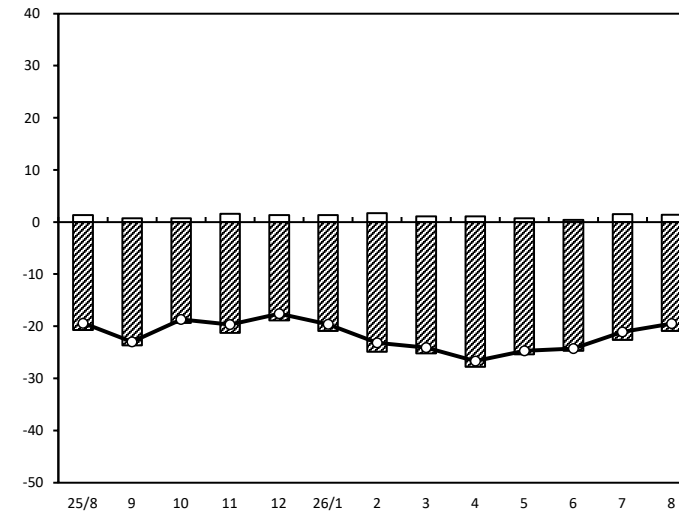
小 売 業【衣料品】（前年同月比）

売上額



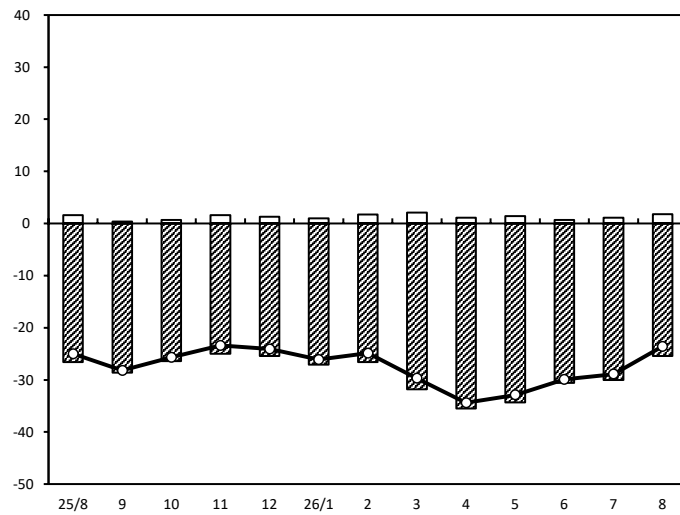
(年月)

資金繰り



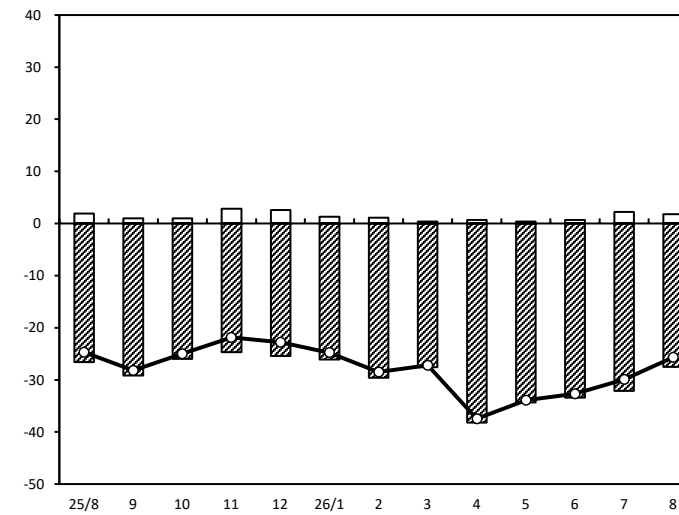
(年月)

採算



(年月)

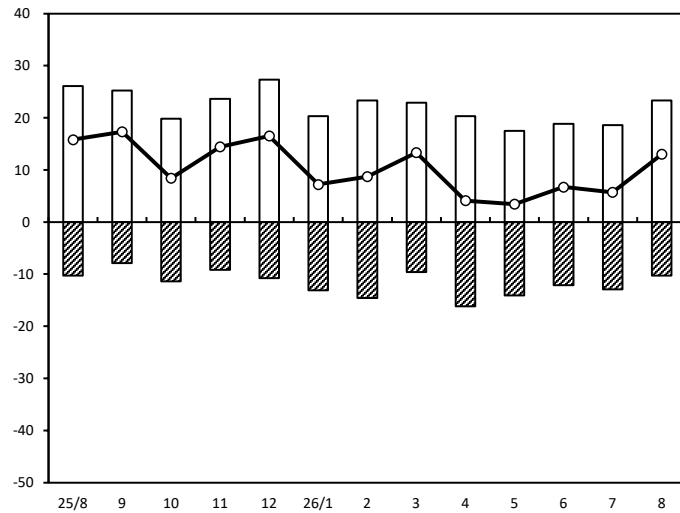
業界の業況



(年月)

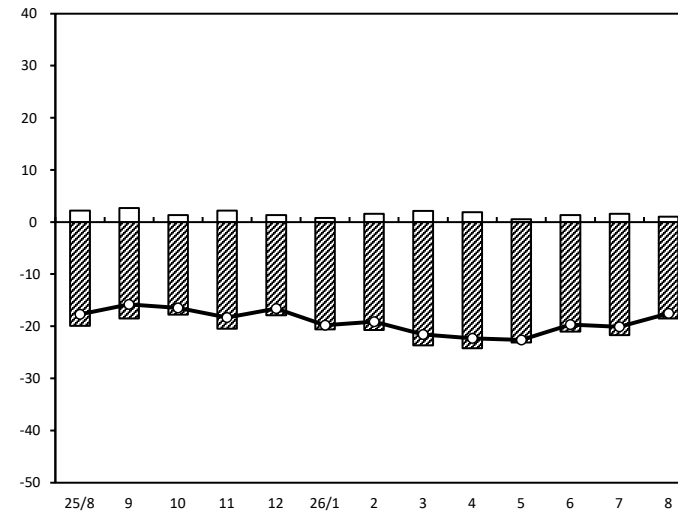
小 売 業【食料品】（前年同月比）

売上額



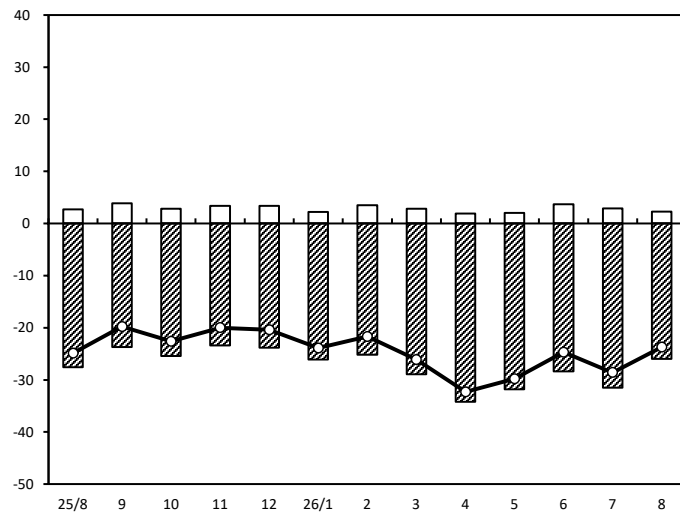
(年月)

資金繰り



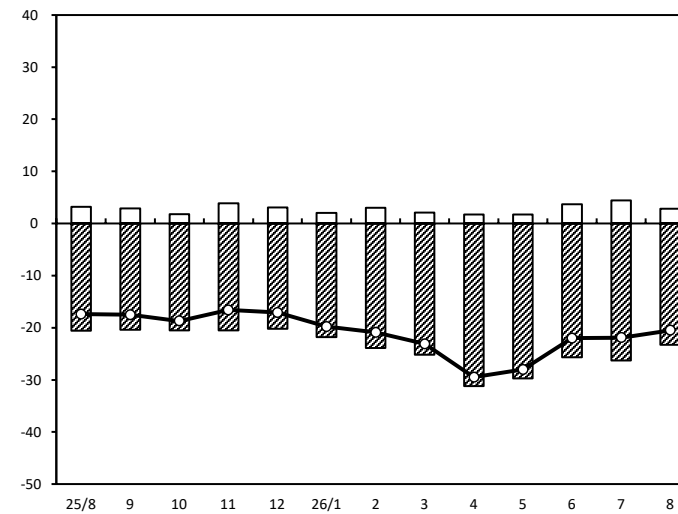
(年月)

採算



(年月)

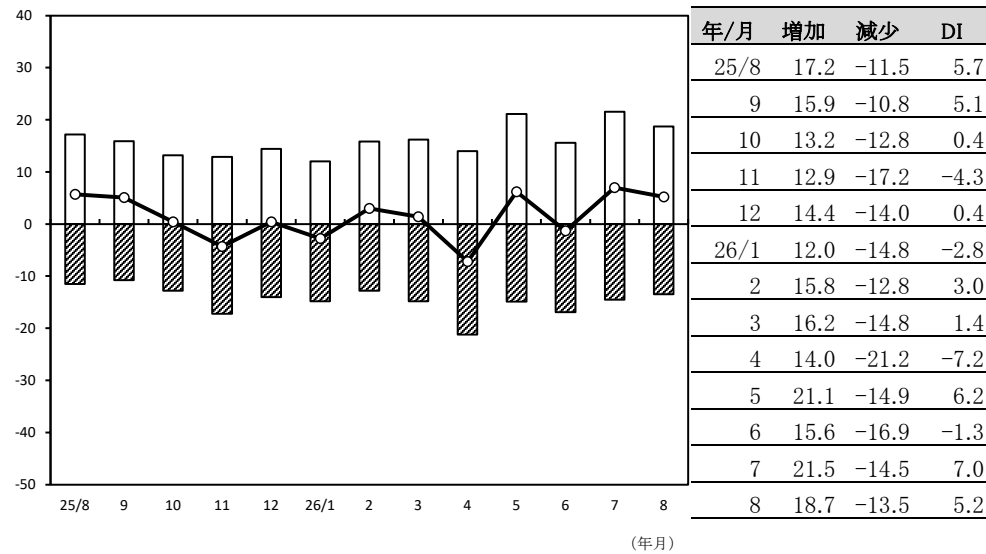
業界の業況



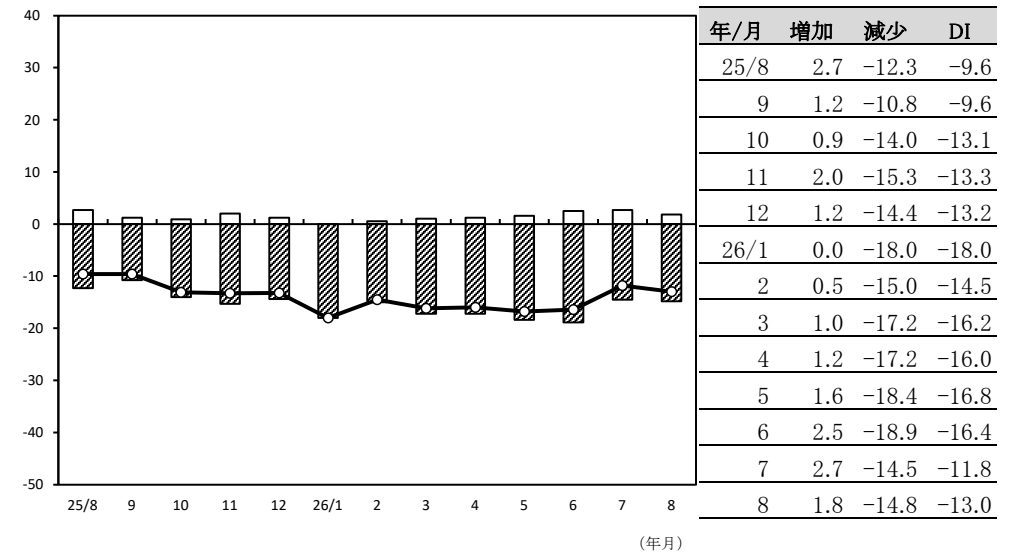
(年月)

小 売 業【耐久消費財】（前年同月比）

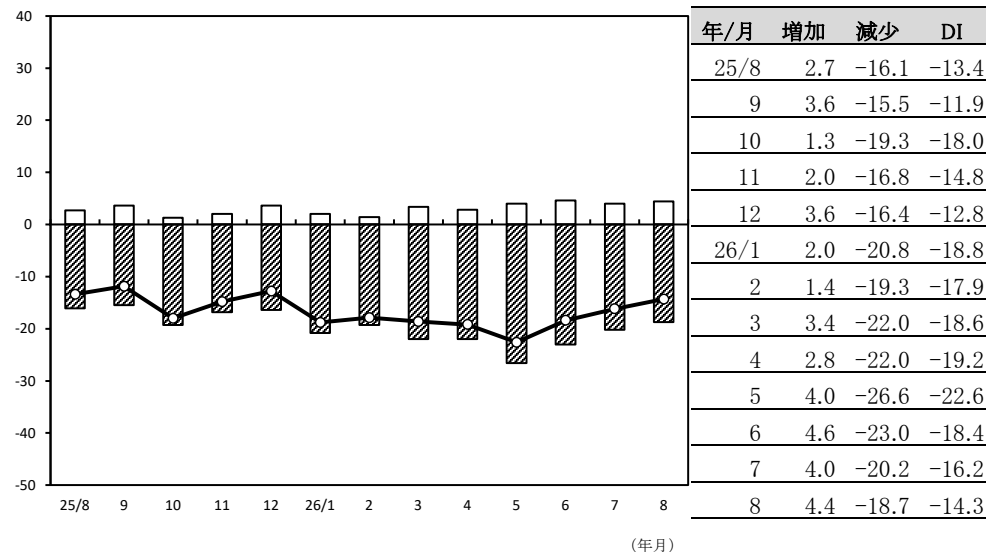
売上額



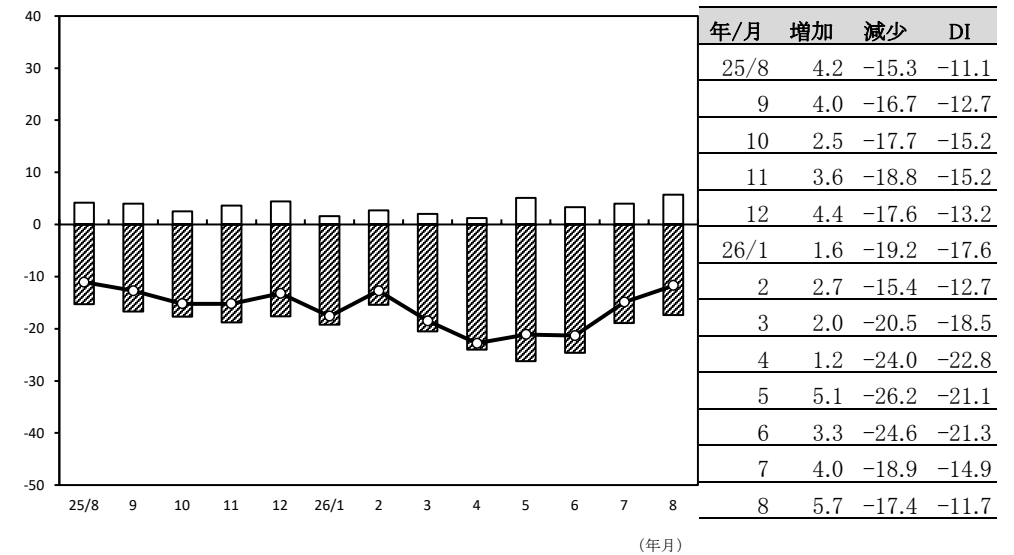
資金繰り



採算

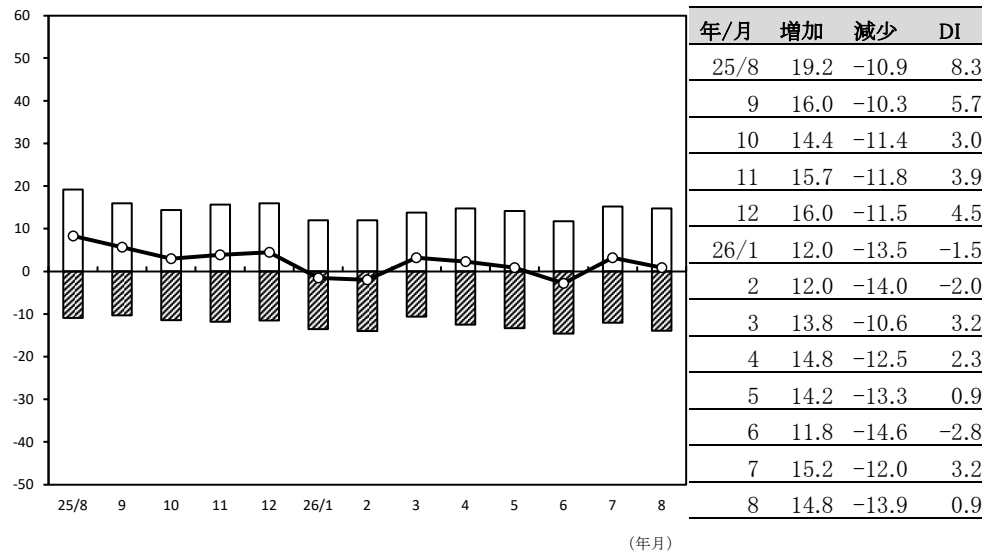


業界の業況

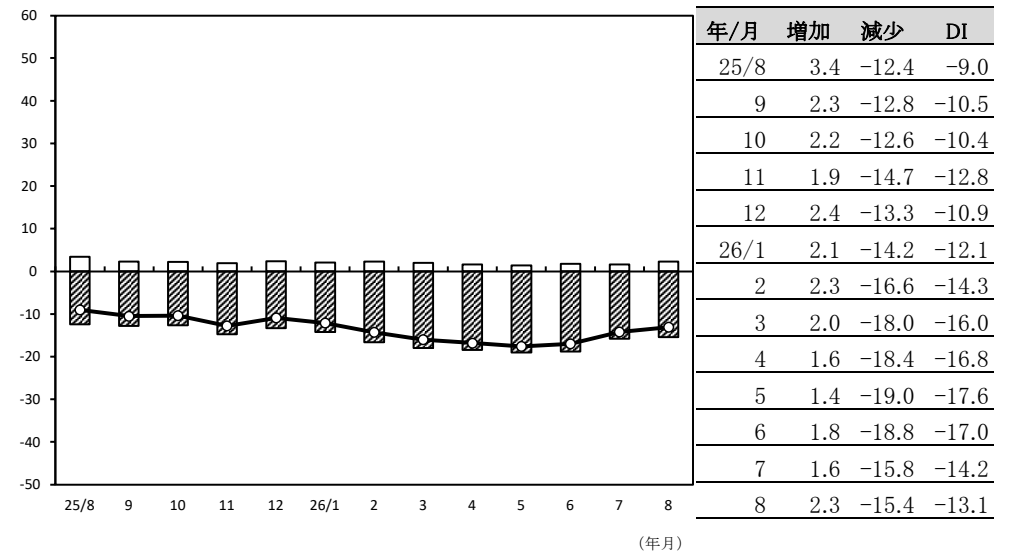


サービス業(前年同月比)

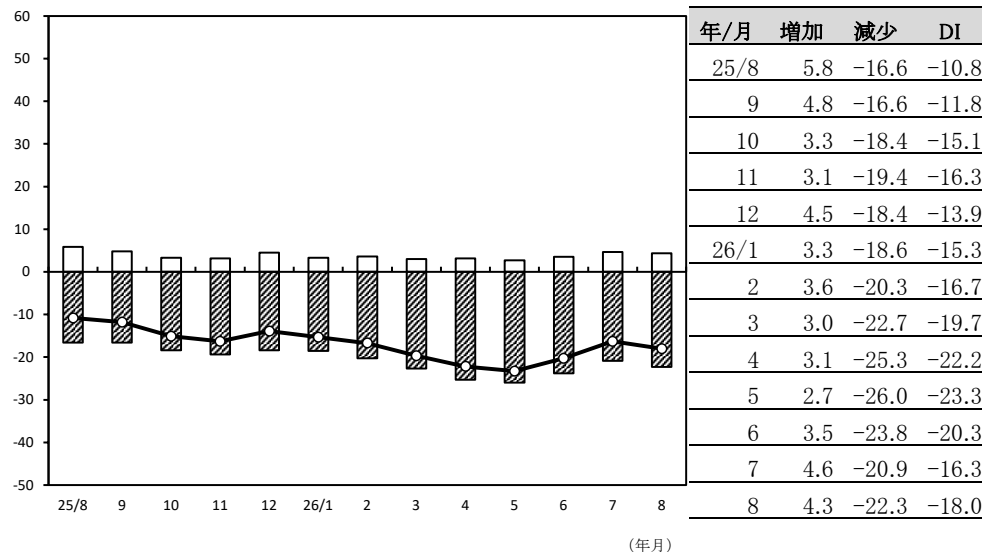
売上額



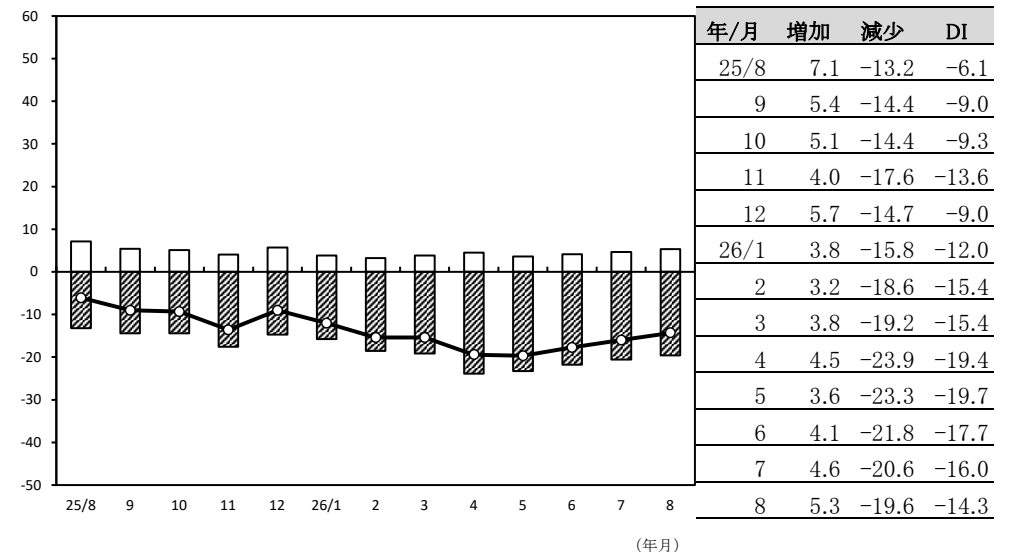
資金繰り



採算

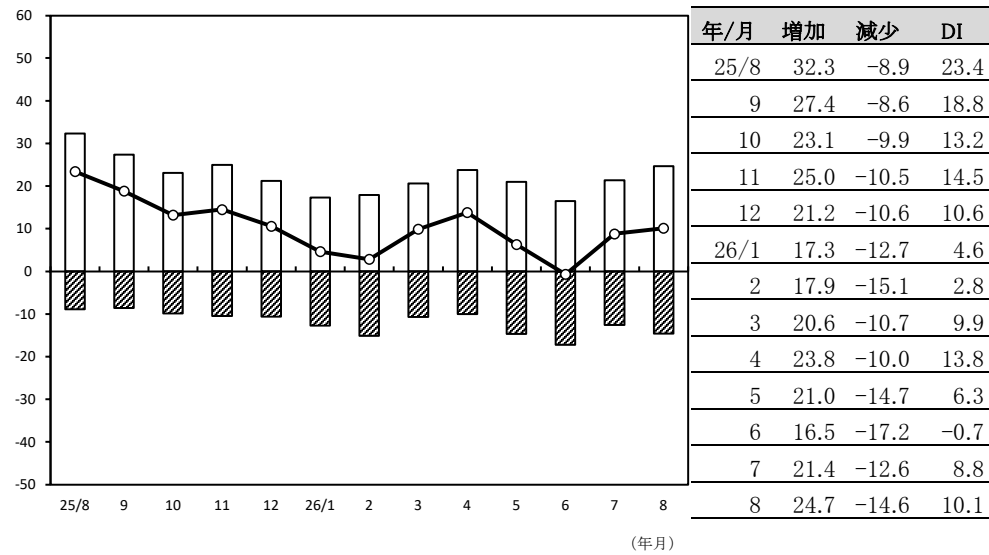


業界の業況

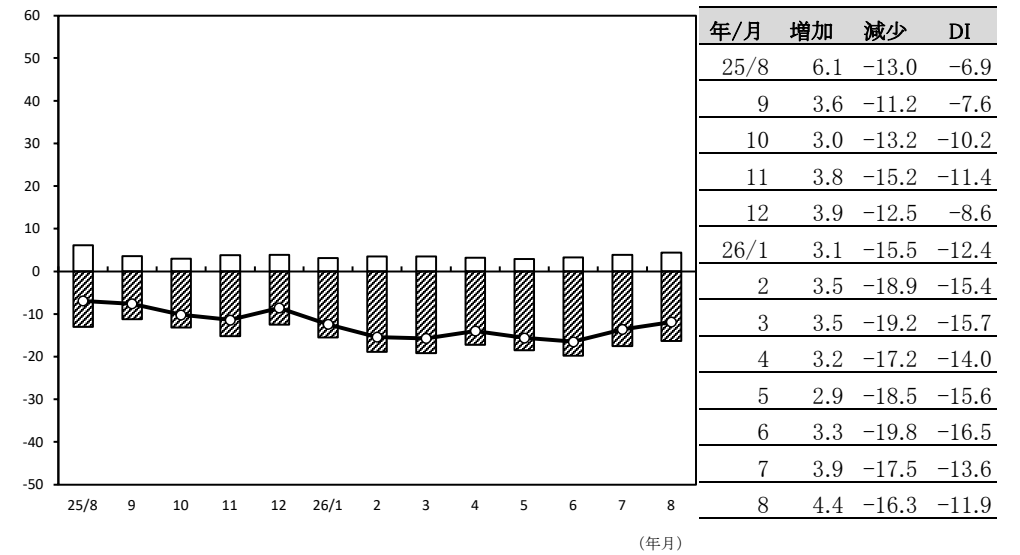


サービス業【旅館】（前年同月比）

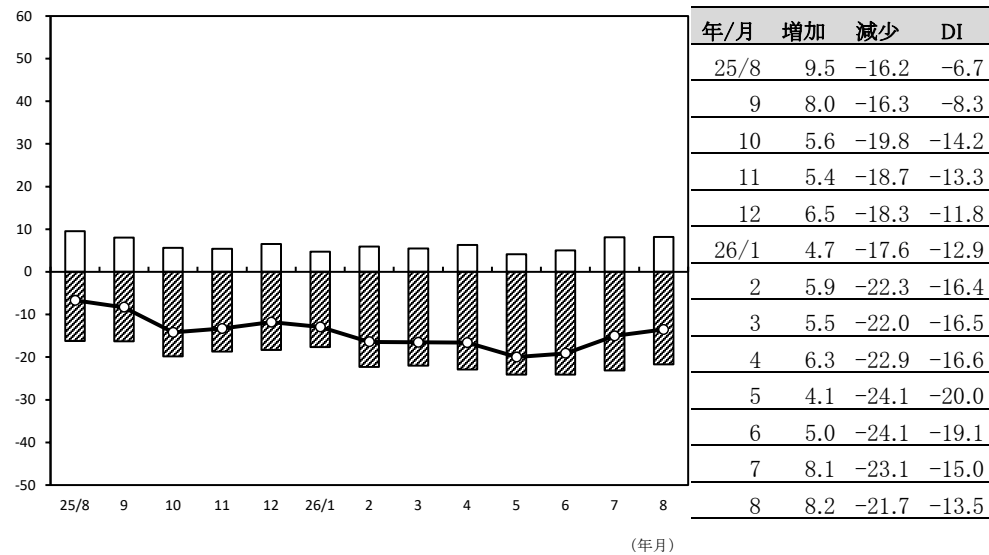
売上額



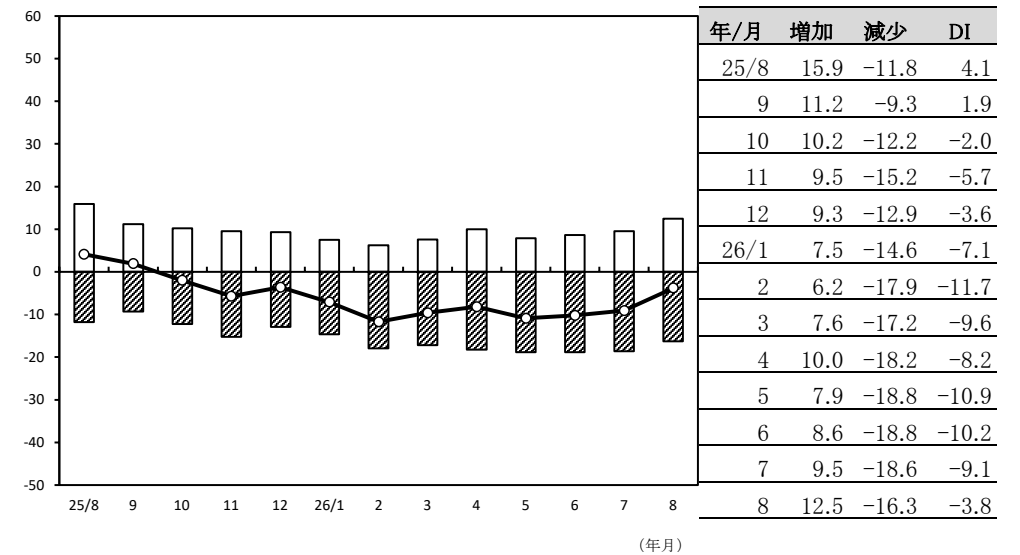
資金繰り



採算

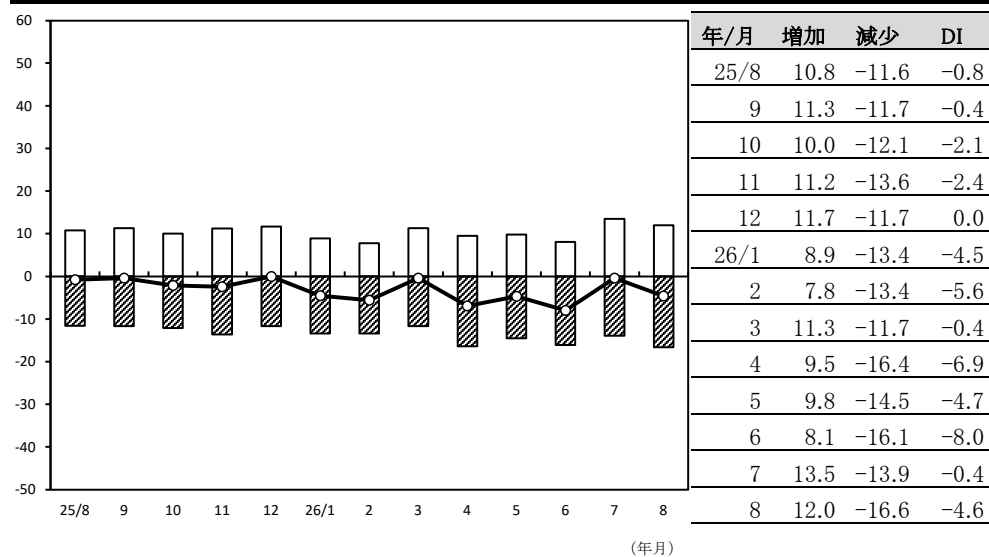


業界の業況

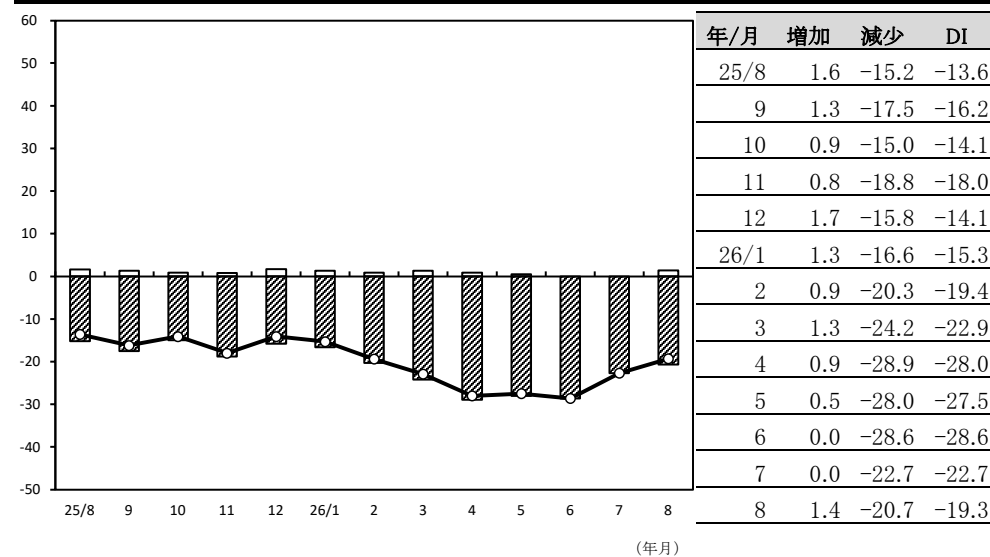


サービス業【クリーニング】（前年同月比）

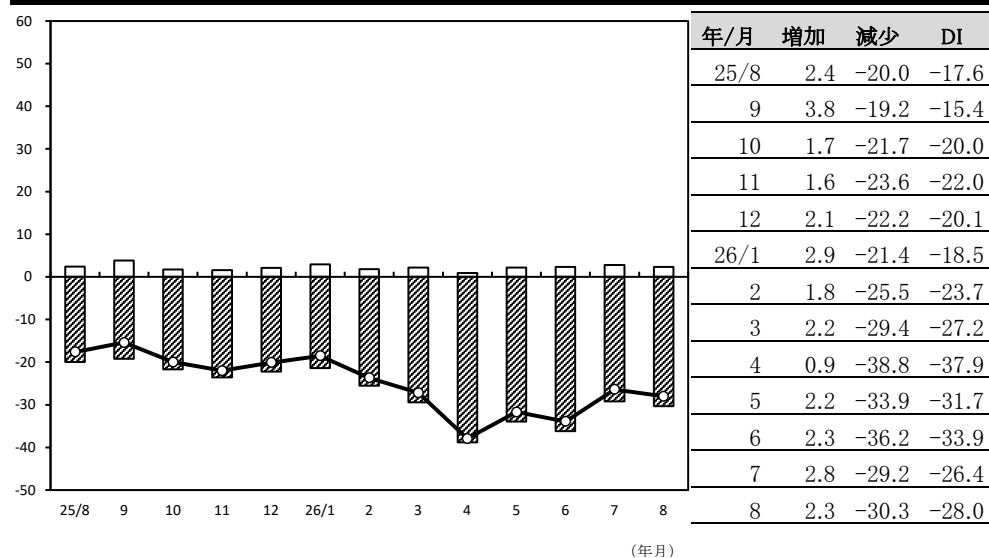
売上額



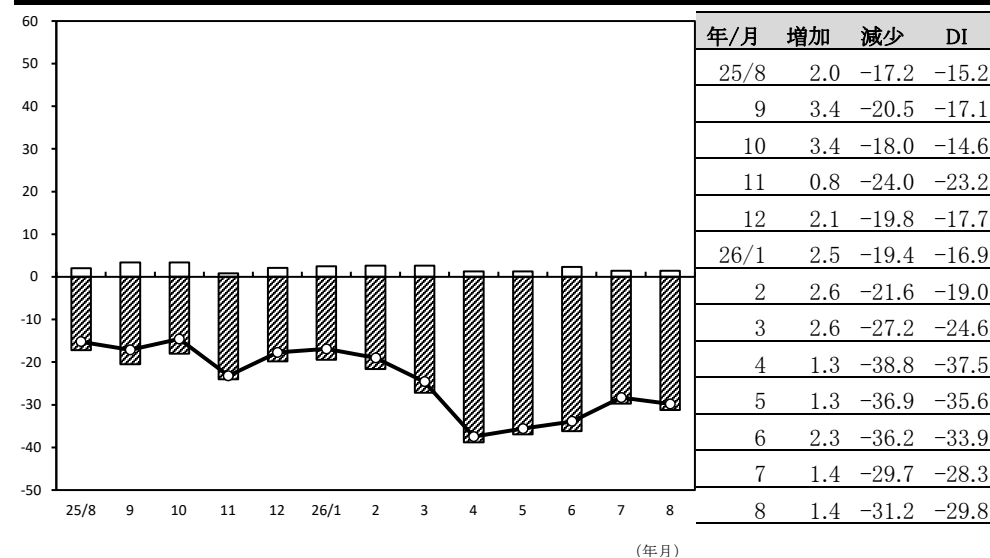
資金繰り



採算

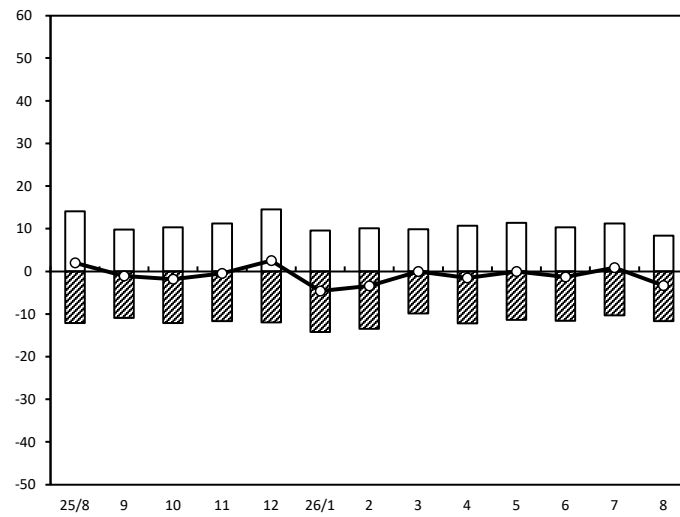


業界の業況



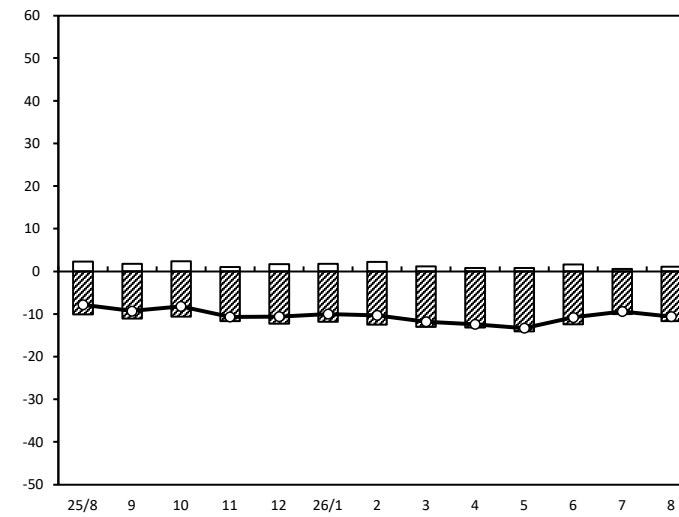
サービス業【理・美容】（前年同月比）

売上額



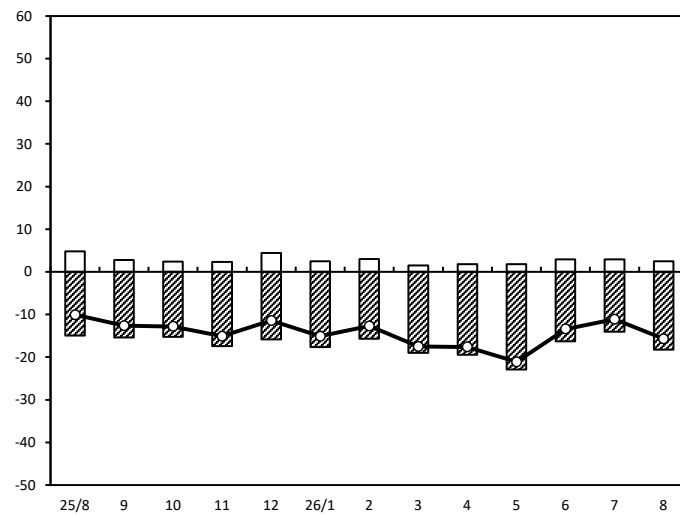
(年月)

資金繰り



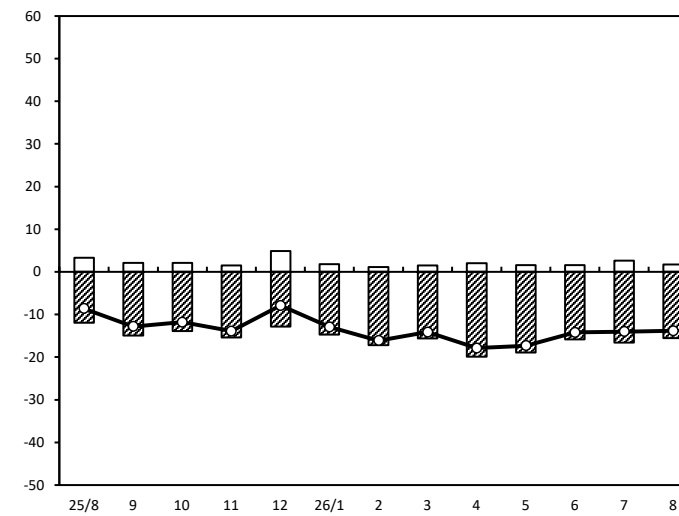
(年月)

採算



(年月)

業界の業況



(年月)

小規模企業景気動向調査(8月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

7年ぶりのまつりの復活で、一時ではあるが町内に活気がでた。町役場から地元業者へのまつり運営にかかる業務委託も増え、町事業者および町民から喜びの声をいただいた。青森県の今夏の気温は例年ほど酷暑になる日もなく、過ごしやすい夏であったと感じる。ねぶたまつり期間中も天気めぐまれ例年以上の人数があった。

(青森県鶴田町商工会)

懸念された中東情勢の停戦中止の影響もさほど感じれず、全体的に好況に振れてきている。一方人手不足感や相変わらずの物価上昇傾向の継続加により、小規模事業者にとっては厳しい経営状況が続いている。

(福島県会津美里町商工会)

景況観は良好である。人手不足が顕著な課題

(埼玉県北本市商工会)

一部に持ち直しの動きが見られ、売上は緩やかに回復している。一方で、仕入価格や人件費等の上昇が続いているため、コスト削減や価格転嫁への対応が必要となっている。

(千葉県我孫子市商工会)

先月に比べて総じて回復基調がみられる

(東京都東久留米市商工会)

観光関連事業者は昨年に引き続き好調であった。

(長野県小谷村商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

建築関係の資材がある程度予定通りに納品されるようになってきたため前年並みの推移となってきたようだ。食品は繰り返しの値上げで特売品、安売り品に偏りが見られ高価格帯の食品の回転率が低下しているとのこと。ガソリン、軽油の価格はある程度抑えられており運送関係は前年並みの経費で推移しているが賞上げしたくても取引単価が上がりすぎ厳しいようだ。天候に比較的恵まれたことで観光関連施設の客入りは前年微増。価格改定を実施したため売上も前年十で推移とのこと。

(北海道小平町商工会)

昨年8月と比較すると全体的に売上は現状維持から上昇傾向にあり、町内経済は賑わいを取り戻しつつあるものの燃料費や人件費等の経費増加により利益が減少傾向にあり、引き続き厳しい状況となっている。

(岩手県岩手町商工会)

価格転嫁の状況は業種によって進捗にばらつきはあるが、利用者の理解も進んでいる事から、だいぶ進んだ印象。他方、原材料価格の上昇は継続しており、さらなる転嫁を行ったときの影響やそのタイミングを不安視している状況となっている。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

管内の景況は、製造業や宿泊業では受注・利用客が堅調な一方、人手不足や従業員の高齢化、猛暑による生産性低下が経営上の課題となっている。また、仕入価格等の上昇が続くなか、商品券事業などの消費喚起策が売上を支えているものの、今後の物価高や人手不足への懸念から、先行きは慎重な見方がみられる。

(秋田県由利本荘市商工会)

製造業、建設業で7月頃から売上が回復傾向にあるという事業者があるものの、40～50代の若い経営者であり、営業・顧客開拓の積極性が売上回復に繋がっている面もあると見られる。ある60代の商店経営者では、事業環境の悪化、得意客の高齢化があるものの、将来を悲観して経営の積極性が低下している例が見られる。景気全体の傾向とともに、個々の企業の経営力がますます重要になると見受けられる。

(静岡県富士市商工会)

値上の波に慣れてきている事業者が多い。資金繰りを円滑に事業をしていくための値上げ、従業員拡充のための賞上げは仕方ない部分であると割り切っている事業者も多い。コストの削減についても補助金での機械設備の導入等でカバーしたい事業が多くみられる。

(三重県伊勢小俣町商工会)

長引く物価高騰、さらなる人件費増大によって、全般的に売上自体は増加している事業者が多いものの、利益は減少傾向にあるのが現状であり、先行きの不安感は拭えず、ネガティブな印象をうける。

(奈良県斑鳩町商工会)

全体として、何とか自然を装っている感じ。しかし、現状は厳しいところが多い。建設関係は特に末端が厳しい状況にある。最近、地上波では中東情勢やロシアウクライナの状況などの情報が極端に減っている。事業者はこの状態が普通であるような感じになってきているのではないかと危機感を覚える。

(和歌山県上富田町商工会)

製造業は、食品関連でお盆需要が好調であった一方、その後は客足が減少し、機械は前年並みで推移している。小売業では物価高を背景に節約志向や買い控えが続く一方、エアコン等では買い替え需要がみられる。建設業は資材高騰や納入遅延により受注・資金繰りが厳しい。サービス業は観光需要が堅調である一方、価格転嫁が難しい業種もある。加えて、最低賃金の引上げによる人件費増加が今後の経営負担となることが懸念される。全体として、業種間で明暗が分かれる状況である。

(鳥取県琴浦町商工会)

気候変動の影響もあり、米や野菜の育成に影響がある。また、全国的な災害級の大雨により、物流関係の価格上昇が懸念されるとの声も見られた。

(岡山県真庭商工会)

やはり仕入れ値が高騰しているため、売上は事態は伸びてきているが、採算が取れない。価格値を調整する動きも出てきている。

(徳島県牟岐町商工会)

ホルムズ海峡危機によるナフサ由来製品の枯渇はひと段落したもの、仕入単価の急激な高騰で値上げがついていかず資金繰りが悪化するケースが散見される。建設業だけではなく、自動車整備業など影響は多岐に及んでいる。さらに金利の上昇は、事業者が新規に融資を受けるのを躊躇うほどになっている。利益の棄損した小規模事業者には施策として間接支援だけではなく、直接支援を行わないと今後地方部の小規模事業者のさらなる減少が加速しそうだ。

(福岡県吉富町商工会)

地域的な景況感、公的なクーポン券・商品券の影響で食料品小売は好転しているが、他の業種ではコストアップがつづいており、今後の最低賃金上昇も踏まえ、価格転嫁が課題であり、引き続き注視が必要。

(佐賀県多久市商工会)

物価高騰については、価格転嫁などの対応も少しづつであるが浸透してきていることから、製造業などでは前年同月と比較して売上、加工費の上昇も見られた。しかしながら、資材・原材料の高止まりが続いており、また人手不足による受注減少、11月からの最低賃金引上げによる影響など、先行きの不透明感は強い。

(長崎県対馬市商工会)

人件費及び仕入価格の高止まりによりキャッシュアウトが多く資金繰りに頭を悩ませる事業者が増加。

(熊本県山都町商工会)

台風ならびに停電の影響により事業に大きな影響を受けております。また離島エリアであるため、航空便や船便の欠航や抜港により多く発生しました。その影響で想定していた売上が見込めなくなり、採算も悪化している状況にあります。

(鹿児島県知名町商工会)

まだ、多くの業種で物価高騰や人手不足の影響を受けている。価格転嫁がなかなかできずに苦勞している声もあった。

(沖縄県嘉手納町商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

お盆需要で、オードブルの注文が増加。連休が取りやすく帰省客も例年より多かった。昔からこの地域ではお墓に法界折(精進料理を折詰した弁当)を供える文化があり、地元新聞社が一面で取り上げてくれた影響もありお盆期間の来店と売上が大幅に増加した。ローカルスーパーとしての知名度も徐々に上がり、地域密着スーパーから観光客も訪れるスーパーとなっていることが、このお盆期間に顕著に表れた。

(青森県鶴田町商工会)

中東情勢が相変わらず不安定な状況ではあるものの、春先のような混乱の兆しも無くある程度堅調な動きを見せてる。一方地方の製造業においては、人材確保が難しく成りつつある中、特に零細企業・小規模事業者にとっては待遇面でも見劣り感が否めず、益々厳しい状況となっている。

(福島県会津美里町商工会)

中東情勢の影響が落ち着いた感あり。一部の企業では、先々の受注が決まり上向き傾向にある。ただ、外注先の高齢化による廃業が深刻。

(埼玉県毛呂山町商工会)

・盆があるためまとまった注文があるが、今年はそこまで伸びなかった(食料品製造業)。・売上、利益ともに堅調に推移しており、受注・売上ともに好調である。今後も需要の拡大が期待され、景気は比較的良好な状況にある(機械金属製造業)。

(鹿児島県日置市商工会 日吉支所)

弁当関連の事業者は久米島オーシャンジェット就航により観光客の増加にともない売り上げ増加している。その反面物価高の影響で食品や資材が高騰し値上げなど価格転嫁している。

(沖縄県久米島商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

食品関係は一定の需要は維持されているが、結局代替品の多さにより価格転嫁が困難な部分が大きく、諸経費増大による影響が顕著となっている。資金繰りも悪化し、付加価値の高い商品開発も困難になってきているとの事。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

食料品製造業関連の事業者は、中東情勢の悪化の影響でナフサ関連品が値上がりし、それも落ち着き始めたが、今度は直接はナフサを使用していない仕入れ品の値上げが続出している。繊維工業関連の事業者は、今年前半は受注確保できていたが、後半は見通しが立っていない。製造単価が安く、価格交渉したいが上手くいっておらず、利益確保できる適正な価格で請負できていない。機械金属製造業関連の事業者は、見積依頼件数が増加傾向にあり業況は好調といえる。

(秋田県かづの商工会)

町内の小規模製造業においては、需要(売上・稼働率)自体は壊滅的ではないものの、「売上高が維持できても利益が出にくい構造」が定着している。今後の見通しについても、設備投資や大規模雇用に慎重な姿勢を崩しておらず、横ばい圏内での推移が見込まれている。

(栃木県那須町商工会)

医薬品や機械金属をはじめとする製造関連の事業者は、原材料価格の高止まりや夏季の工場稼働に伴う光熱費負担の増大のため、収益性が緩やかに押し下げられる状況になっている。特に下請け企業においては、発注元への適切な価格転嫁に時間を要しており、賃上げ等に伴う人件費の上昇分を十分に吸収できず、採算が悪化する傾向が続いている。

(富山県上市町商工会)

製造業関連は、半導体・液晶製造装置関連部品や工作機械関連部品の需要が堅調なため、売上額・業界の業況が好転している。特に機械金属製造業は新規受注が高水準で生産が牽引し、収益改善が進んでいる。一方、食料品製造業は原材料・仕入れ価格の上昇(前年比プラス)が継続しているものの、価格転嫁により収益は改善傾向にある。ただし、人手不足やコスト高への対応が課題で、先行きには不安が残る状況。

(山梨県身延町商工会)

機械金属製造業関連の事業者は、取引先との交渉により価格転嫁ができて、それを上回る原材料費の価格高騰により利益を圧迫されている。また人手不足も深刻で、外国人材を活用し生産性低下を招かないよう対処しているが、社内教育の必要もあり問題は山積している。

(愛知県飛島村商工会)

物価の上昇にも価格転換やコスト削減等での対応が慣れきたことから資金繰りや採算に大きな変動はない。昨年同月と比較すると価格自体は少し上がっているが、許容の範囲内である。

(三重県伊勢小俣町商工会)

受注は前年より減少して厳しい状況である。材料費や光熱費・人件費も上昇しており、利益確保が困難である。今後は受注の確保に努めたい。

(大阪府羽曳野市商工会)

原材料・経費の価格高騰が長期化しており、仕入コストの上昇分を価格転嫁しきれず、各事業所の採算維持を圧迫している。下請け加工等を中心とする製造分野では、受注量は前年並みの水準(不変)を維持しているものの、手元資金が不足して資金繰りは「やや悪化」傾向にある。また、見積提示の遅れや部品入荷の遅延が発生しており、事業所が前向きな設備投資や補助金申請を進めたくても足踏みを余儀なくされるといった、マクロな構造的課題が足かせとなっている。

(兵庫県丹波市商工会)

一部価格転嫁ができており、売上額自体は増加しているが、それ以上に材料費、人件費等の経費が増大しており、利益を圧迫している。今後の物価の高止まりと最低賃金引き上げによる更なる人件費増大によって、経営の悪化が懸念されている。

(奈良県斑鳩町商工会)

概ね順調ではあるが、仕入単価の上昇による価格転嫁ができなくなっている。中東情勢も落ち着き、ナフサの問題が聞かなくなっているが、単価が下落していなくなっている

(広島県江田島市商工会)

材料費人件費その他諸経費が度々上がっていく中で将来を予測した上での価格交渉が必要となり、多くの企業が対応できていない状況にある。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

食料品製造業関連の事業については売上は少し回復傾向であるが以前仕入単価が増加気味であるため、業界自体回復していない。

(徳島県牟岐町商工会)

包装資材など間接的要素な経費が増加傾向にある。また職場環境の改善目的に女性専用トイレの設置を考えていた事業所においては想定を上回る見積額を提示され、設置を断念されていた。見積が高騰した要因に資材輸入の困難さや人件費を上げられたとのこと。

(佐賀県基山町商工会)

菓子製造業では、原材料(卵・バター)の価格が高止まりしており、10月以降はその他原材料の値上げも想定されるため、さらなるコスト上昇に不安が広がっている。加えて、最低賃金のさらなる引上げにより固定費も引き上がるため、収益状況はさらに悪化すると懸念している。可能な範囲内で価格転嫁を行っているが、追いついていない状況。

(長崎県諫早市商工会)

食料品製造業関連の事業者は、容器や包装等の経費コストの増加、人手不足、など問題が生じている。また熊本地震の影響で、取引先であるホテル等のキャンセルが多く、売上に影響している。

(熊本県苓北町商工会)

食料品製造業関連の事業者は、お中元やふるさと納税等の影響のため、売上は増加傾向になっている。

(大分県日出町商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

価格転嫁に寛容な業種ともあり、堅調な動きが続いている。

(福島県会津美里町商工会)

仕事の引き合いは多く、部材等の仕入れや人件費のコストは上昇しているが価格転嫁できる状況にある。資金調達もしやすい環境にあるが、金利も上昇傾向にありコスト管理が必要である。仕事量に対しての人員不足が喫緊の課題である。

(埼玉県入間市商工会)

建設業の事業者は、従業員不足は否めないものの、受注等に関しては好調で業況も安定している。

(神奈川県小田原市橋商工会)

・人手不足、資材価格の高騰、資格保有者の高齢化、若年従業員の資格取得に時間がかかるなどの課題が依然としてある。業界全体としては公共工事は今後減少傾向に向かうとみられるが、住宅の新規建設・リフォーム需要が高く左官・内装・塗装・板金・電気工事など関連産業が活況である。

(鳥根県隠岐の島町商工会)

建設業では、昨今の中東情勢による仕入資材の高騰が見られる。一方、案件及び売上額は増加傾向にあり、利益については収支同等もしくはやや増加の状態となっている。

(香川県高松市中央商工会)

土木関連の事業者は、公共工事等の発注のため、先々まで埋まっており、順調に推移している。

(大分県日出町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

生コン・鋼材・木材など主要資材の需給は安定しており、工事進捗に大きな支障はみられない。一方で、H形鋼を中心とした鋼材価格の上昇や人件費の増加が採算を圧迫しており、収益環境は依然として厳しい状況にある。公共工事の発注は堅調であるものの、原材料高騰や中東情勢によるコスト増の影響から、先行きは慎重な見方が必要である。

(岩手県前沢商工会)

一部材料(溶剤等)の仕入状況は改善の傾向にあるが、これまでの影響や天候不順等により工期のズレはあまり解消していない。当然のように値上がりもあり、状況の改善には至っていない。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

建設業関連の事業者では、8月期はお盆明けから受注が減少し、例年よりも落ち込みが大きかった。一方、決算期にあたる当年の売上高は前年を上回った。資材の入荷は欠品が解消し安定しているものの、価格は依然として高止まりの状況が続いている。

(茨城県守谷市商工会)

公共工事や老朽化対策・修繕需要に支えられ底堅さを維持しているものの、コスト高と人材不足により利幅が圧迫される展開が続いている。資材価格や輸送費の高止まりに対し、公共工事を中心に適切な価格転嫁が一部進み採算改善の兆しも見られる。一方で、民間・住宅需要の伸び悩みや猛暑・天候不順による工期遅延の影響を受けている。さらに人件費の上昇や職人不足が慢性化しており、受注機会があっても利益に結びつきにくい構造が続いており、今後は適正価格での受注維持と人材確保が課題となる。

(栃木県那須町商工会)

資材等お仕入れは問題なくできているが、価格高騰が広範囲に及んでいるため収益を圧迫している。

(群馬県みなかみ町商工会)

一時期不足していた塗料などは少しずつ入手できるようになってきたもののその他の建設資材を含めて価格高騰が続いており、資金繰りを懸念する声が多く聞かれた。

(千葉県栄町商工会)

総合工事業において、経費は増加しているものの、依頼数は増加傾向にあり、人手不足による失注が発生する程度には業況は良い。最低賃金上昇に伴い人員確保がより困難になっており、失注等が更に増加することが見込まれる。

(東京都福生市商工会)

仕入価格の高止まりが続いているようすが窺える。また、リゾート開発の進展により、周辺市町村に比べて、外国人・県外事業者による住宅や宿泊施設のリフォーム需要は高いが、市内施工業者の減少により、県外・市外施工業者が多く参入しており、管内小規模事業者等の直接的な事業拡大や経営改善につながっていない状況が見受けられる。

(新潟県妙高市商工会)

建設関連の事業者は、建築資材価格の緩やかな上昇に加え、連日の猛暑に伴う作業環境の厳しさや熱中症対策に伴う手配コストの増加のため、工期管理や採算確保に苦慮する状況になっている。慢性的な職人不足に伴う外注費の高止まりも続いており、民間住宅投資の落ち着きも相まって、受注案件の収益性はやや低迷している。

(富山県上市町商工会)

資材価格の高止まりに加え、燃料費、運搬費、人件費などのコスト上昇が続いており、採算確保が難しい状況となっている。特に価格転嫁が十分に進まず、利益率の低下が懸念される。また人手不足や高齢化により、受注は確保できても施工体制の確保が難しい企業もみられる。

(山梨県昭和町商工会)

引き続き、資材価格の高騰や納期の長期化が建設事業者の経営を圧迫しており、工事原価の上昇や工期への影響を懸念する声が聞かれる。一方、ナフサ不足の影響により供給が不安定となっていたユニットバス等の建築資材については、以前と比べて供給状況が改善し、納期の長期化も徐々に緩和されてきたとの声がある。ただし、資材価格は依然として高い水準にあり、コスト面では厳しい状況が続いている。

(岐阜県中津川北商工会)

【建設業】仕事の予定は立っており親会社の依頼により全国の現場に向かう。ただ中東情勢の影響により資材調達難から工程がおくれ、請求の入金遅れが重なっている。金額も大きくなって来ており、慎重に対応する必要がある。

(静岡県浜名商工会 雄踏)

ナフサ不足による仕入れの停滞も解消されつつあり、価格転嫁も一部できているものの、資材、外注費、人件費の増加傾向はとまらず利益が非常に圧迫されている。また、新たな設備投資や運転資金用の為の借入についても、直近の金利の上昇により、二の足を踏んでいる状況であり、キャッシュフロー悪化が常態化している。

(奈良県斑鳩町商工会)

売上額や業界全体の業況感はおおむね「不変」から横ばいで推移しているものの、資材を中心とする仕入単価の上昇が採算面への強い下押し圧力となっています。現場では、仕入単価の大幅な高騰に対応するため順次価格改定を進めるとともに、見積もりの有効期限を短縮してリスク回避を図る動きが見られます。しかしながら、実際の契約締結時にさらなる資材値上がりが発生するなど、価格変動のスピードに追いつかず苦慮している実態がうかがえます。タイムリーな価格転嫁の徹底と適正工期・請負額の確保が今後の重要な課題です。

(鳥取県米子日吉津商工会)

塗装業においてナフサ由来製品の枯渇での入荷遅延はひと段落したようだが、製品によって価格が2倍近くまで上がっているものもある。見積時点との差額を請求できず、資金繰りに窮しているが、コロナ時の借り入れやその後のリスクで資金調達のめどが立たずに行き詰まるケースがあった。

(福岡県吉富町商工会)

8月は、高速道路の通行止めが月前半まで続いたことから、資材の搬入や現場への移動等に一部影響があったとみられる。受注状況に大きな変化はないものの、工事の進捗や資材調達などを含め、引き続き慎重な状況が続いている。

(熊本県多良木町商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

売上は好転した事業所が増加した。仕入価格の上昇や人件費の高騰を売価に価格転嫁することは厳しいが、個人消費が回復傾向である。

(兵庫県太子町商工会)

衣料品、食料品、耐久消費財ともに売上や需要に一定の動きが見られます。衣料品は登山客の減少や素材高騰に加え生活必需品優先の消費傾向から悪化傾向にありますが、食料品ではドラマロケ地としての誘客やSNS活用による改善の動きが見られます。また耐久消費財では繁忙感がありオイル等の高騰に対しても価格転嫁が進んでいます。一方で、共通して仕入単価の上昇が続いており採算への警戒感根強いです。さらに従業員や熟練技術者の確保難といった人手不足が各業態で常態化しており、作業負担の軽減や労働環境の改善が喫緊の課題となっています。

(鳥取県米子市吉津商工会)

仕入額の増加に伴い販売価格の値上げを行ったため、若干の客単価の低下と客数の減少があったが直ぐに客数は戻った。客の値上げに関するアレルギー感は少なくなっているように感じる。

(岡山県瀬戸内市商工会)

食品関連の事業者は久米島オーシャンジェット就航により観光客の増加にともない売り上げ増加している。その反面物価高の影響で食品仕入れが高騰し値上げなど価格転嫁している。

(沖縄県久米島商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

価格転嫁により売上は増加しているが、それに伴った利益は確保できていない。

(秋田県よこて市商工会)

地方の小売業は、コンビニ・スーパー・ホームセンター、ドラッグストアを除き、大変厳しい状況が続いている。昨年の米価高騰により一部の取扱店舗は売上の大幅増があったものの、今年は厳しい状況になると想定される。また、最低賃金の引き上げにより、扶養の範囲内での就労希望者の勤務時間がより狭まり、人手不足感に拍車をかけている。

(福島県会津美里町商工会)

小売業関連の事業者は、物価高による仕入単価の上昇と消費者の節約志向の強まりにより、売上・採算ともに前年同月比で弱含んでいる。衣料品では季節商品の動きが鈍く、耐久消費財では買い控えが顕著で販売数量が減少している。食料品小売は需要が底堅いものの、価格転嫁が進む一方で買い控えが一部で見られ、収益改善には至っていない。全体として、在庫負担やコスト増が重く、慎重な経営姿勢である。

(茨城県阿見町商工会)

お盆休みや夏休みの観光需要で「お土産・特産品・飲料」などの売上が好調に推移した。一方、酷暑による日中の客足減や、店舗冷房費の急増、原材料高に伴う仕入単価の上昇が利益を圧迫する月となった。特に地元向け店舗では住民の強い節約志向から厳しい採算が続いており、観光需要の波に乗れた店舗との二極化が一段と深まっている。今後は、繁忙期に訪れた観光客をLINEやECで繋ぎ止め、秋以降のリピーター(通販)へ変える施策や、高騰したコスト分を吸収するための適正価格への改定(値上げ)支援が必要。

(栃木県那須町商工会)

物価高に伴う消費者の節約志向により、衣料品や耐久消費財を中心に買い控えが見られます。仕入単価の上昇に対して販売価格への適正な転嫁が難しく、店舗の採算面・資金繰りを圧迫する要因となっています。

(埼玉県幸手市商工会)

小売業の中では衣料品について大きく売上が減少しており、ネットショッピングやファストファッションの台頭があり、街の洋品店やブティックは売上が伸びず、祭事品を取り扱う店舗が多少売り上げを増やすといった状況である。食料品や耐久消費財は横ばいといった状況である。

(千葉県香取市商工会)

8月は夏季需要による一定の動きが見られた一方、仕入れ値や各種コストの上昇が収益を圧迫し、業況は横ばいとなりました。

(東京都東久留米市商工会)

地元密着型の小売関連の事業者は、お盆期間中の帰省客増加に伴う贈答用食料品やエアコン等の夏季需要のため、一時的に売上の持ち直しが見られる状況になっている。しかし、継続的な物価高に伴う節約志向も根強く、店舗の冷房費等の光熱費増加が利益を相殺しているため、全体的な収益改善の動きは限定的となっている。

(富山県上市町商工会)

家電販売業では、売上が前年を上回り好調に推移している。猛暑によるエアコン需要に加え、省エネ基準改定を見据えた買い替え需要も家電市場を下支えており、季節需要を捉えた販売が売上増につながっているとみられる。喫茶店では、売上がやや厳しい状況で推移する一方、仕入単価の上昇も続いている。コーヒー豆の国際相場高や物流費の上昇を背景に、業界では価格改定が相次いでおり、客数の確保と仕入コストの上昇を踏まえた価格設定の両立が課題となっている。

(岐阜県大垣市商工会)

衣料品小売業関連の事業者は今月もメーカーの動き悪く、廃業も1社あった。業界全体の動きは悪い。最近の顧客の動向は、季節の先物を買いに来店するのではなく、1週間後の物を買いに来る傾向があり、必要な商品のみを購入するトレンドに変わっている。食料品小売業関連の事業者は8月は特に変わった動きは無い。仕入単価は一度上がれば、ことは無い。発注商品は、すぐ納品されるので問題無い。耐久消費財関連の事業者は販売価格は、メーカーが強気で値引きは無い。エアコンは、2027年度基準で価格が上がるため、その前に買っておくという先食い特需がある。照明については、蛍光管の製造が終わるので、LEDへの需要が多くなっている。

(滋賀県大津北商工会)

衣料品小売においては、高齢の常連客を持つ事業所では猛暑により外出を控える傾向がみられ、来店客数減少。エアコン設置工事においてはピークであったものの、人手不足により機会損失があった事業所もあり。

(京都府京丹後市商工会)

・食料品小売業について、物価高騰により、仕入高が昨年同月対比で上昇傾向にある。売上の推移については増加傾向にある事業所が散見されるものの、価格転嫁遂行による高利益確保もしくは新規及びターゲット顧客獲得と増加を経営課題としている事業所が多い。・耐久消費財小売業については、物価高騰の影響による仕入値の増加から、販売よりレンタルの需要が増加している。これにより仕入も減少傾向にあったことから利益に減少の影響はない。

(香川県高松市中央商工会)

物価高による消費者の節約志向が続き、買い控えや低価格志向が見られる一方、生活必需品を中心に一定の需要は確保されている。仕入価格や物流費、人件費、光熱費等の上昇が採算を圧迫しており、価格転嫁も容易ではない。大型店やネット通販との競争もあり、小規模事業者を取り巻く経営環境は厳しい状況にある。

(愛媛県周桑商工会 小松支所)

食料品小売業においては、市のクーポン券及び県の商品券事業の恩恵もあり、前年同月より売上は増加。一方で度重なる仕入価格の高騰と、今後の最低賃金上昇の影響が今後の採算に影響を与える見通し。

(佐賀県多久市商工会)

食料品小売業関連の事業者は、販売単価増やお中元、お盆関連商品等の影響のため、売上は増加傾向になっている。

(大分県日出町商工会)

小売業全般において地域柄、顧客の多くが中小企業の従業員であるか一次産業に従事しており、賃上げの恩恵を受けていないことに加え、生活費負担が大きくなっていることから消費は低迷している。なお、賃上げの影響を受けている世帯は域外での消費が大きい。

(鹿児島県志布志市商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

夏休み需要で観光客や宿泊客が増加し宿泊業や洗濯業は活性化された。理美容については、客単価が上がったが仕入は増加し横ばい状態である。

(千葉県香取市商工会)

旅館・宿泊所関連の事業者は、特にキャンプやサウナが好調であり、売上額はやや増加した状況である。

(長野県小谷村商工会)

サービス業関連の事業者は、夏休みなどの長期休暇があると家族で出かける機会が増える傾向にあり利用が増え、併せてお盆も重なり宿泊利用が増えて売上は増えた。

(京都府京丹波町商工会)

夏休みやお盆休みによる需要変動を受けつつも、全体として堅調に推移した。旅館と飲食は、レジャーや帰省、団体利用などの活発な観光需要に支えられて客数・売上が増加し、仕入単価の高騰が続く中でも好調を維持した。美容は、イベント需要が高まった一方で、猛暑の影響や物価高による節約志向とお盆休みの影響が重なり、全体としては前月比横ばいから微減となった。クリーニング業は大きな変化がなく横ばいで推移となり、経費高騰への価格転嫁が課題となっている。

(岡山県みまさか商工会 勝央)

<悪化傾向を示すコメント>

旅館・宿泊業関連の事業者はお盆の連休もあり、好転した。洗濯業関連の事業者は燃料価格の高止まりが継続化している影響から採算に影響が見られる。

(北海道新ひだか町商工会)

宿泊業において、事業者数は少ないものの、観光・帰省需要の回復により活発化したが、光熱費・食材費の高騰により利益確保が困難な状況。また、洗濯業においては、一般衣類の持ち込み点数の減少やエネルギーコストの再高騰が利益を直撃し、前年より厳しい経営環境となっている。更に、理美容業においても客数は前年並みを確保しているものの光熱費・消耗品費の増加により利益確保が困難な状況となっている。

(岩手県岩手町商工会)

洗濯関連事業者では、台風やゲリラ雷雨などの天候不順により高齢者の来店が減少した。一時的に仕入商品の欠品は発生したものの現在は解消している。ただし、石油関連資材の再値上げが予定されており、仕入価格の上昇次第では再度の価格見直しが必要となる可能性がある。理・美容関連事業者では、夏休みに伴い子ども客の来店が平日昼間から増加し、客数・売上ともに堅調に推移した。売上増を背景に、従業員の給与引き上げなど待遇改善にも取り組むことができた。

(茨城県守谷市商工会)

お盆休みや酷暑による避暑需要が追い風となり、観光・宿泊・飲食を中心に高い需要を集めた。しかし、深刻な人手不足から「満室・満席にできない」機会損失が発生。さらに、連日の酷暑に伴う施設冷房費(電気代)の急増や、食材費・人件費の上昇が利益を圧迫し、繁忙期でありながら粗利を残しにくい状況が浮き彫りとなった。一方、地元向け理美容等は節約志向から単価が伸び悩んでいる。

(栃木県那須町商工会)

宿泊施設では夏休みやお盆期間の利用客は堅調で昨年並みという声も多いが、コストが増加傾向にあるため収益はやや悪化している。

(群馬県みなかみ町商工会)

理美容業者は、人口が少なくなる中、新規の顧客は見込めず、既存先も来店周期が長くなり、売上減少から脱却できない状況である。

(神奈川県小田原市橋商工会)

生活密着型サービス関連の事業者は、猛暑による日中の外出手控えや消費者の節約志向の強まりのため、来店周期の伸びや客単価の低下が散見される状況になっている。電気代等の固定費上昇分を施術・サービス価格へ十分に転嫁できていないことから、採算面での苦慮が続いている。

(富山県上市町商工会)

サービス業関連の事業者は、夏休み・お盆期間の観光需要回復により旅館・宿泊所の売上額が前年比で大きく伸び、業界の業況が好転している。客室単価(ADR)と稼働率の向上が収益を押し上げ、資金繰りも改善傾向にある。理美容業は美容室市場が前年比マイナス5.9%ながら、客単価が男女ともに最高額を更新し売上額はやや増加、業界の業況もやや好転している。洗濯業は夏場の衣替え需要が落ち着き、売上額・採算ともに横ばいで業界の業況も不変。一方、人件費・光熱費・原材料価格の上昇により仕入単価は全業種で上昇しており、特に旅館・宿泊所ではコスト増が課題となっている。

(山梨県身延町商工会)

物価高騰の影響で仕入れが高い。最低賃金が増えるため、取引先との交渉を考えている。

(岐阜県白川町商工会)

旅館観光業では、宿泊客数は微増である。夏休みや帰省需要により客足は回復傾向にある。家族連れや個人旅行客の利用が増えてきている一方で、従業員の確保がなかなかできないといった相談を受ける。洗濯業では、売上は前年と比べると横ばいから微減といったところである。猛暑の影響で家庭での洗濯が増加している。理美容業では、来店客数は安定しているものの物価高の影響で材料費・人経費がかさみ利益面では厳しい状況である。シャンプー、カラー剤、タオル洗濯費、電気料金等が上昇しているため料金を改定したが、客離れへの懸念から十分な値上げができていない。

(静岡県静岡市清水商工会)

旅館・宿泊所関連の事業者は、夏場を迎え宿泊単価を上げた効果が出て売り上げ増となった。仕入単価も上がっているが、宿泊単価を上げたため、採算も好転している。宿泊客の中に、外国人客も入るようになったが、従来からの近隣の工事等の仕事のために宿泊するお客が減っている。洗濯業関連の事業者は、暑すぎて来店客が少ない。この時期、浴衣のクリーニング持ち込があるが、今年は暑くて浴衣姿を着る女性が少ない。また、衣服の素材が変わり、クリーニングに出さなくても自宅の洗濯で終わらせる人が増えている。理美容業関連の事業者は、今月も顧客が格安店に流れている傾向がある。業界の業況は、厳しい。

(滋賀県大津北商工会)

材料費や人件費が高騰しており、利益も圧迫しているが、直近では、人手不足がもっとも大きい課題となっている。労働環境や待遇を改善しても中々新規雇用が進まず、雇用できたとしてもすぐに退職されてしまうなど、人手不足による機会ロスが大きく発生している。

(奈良県斑鳩町商工会)

業種や天候要因によって明暗が分かれる展開となっています。旅館業では学生グループの需要増やインバウンド客の増加が売上を押し上げ、洗濯業でも雨天増により乾燥機需要が高まるなど好調な動きが見られます。一方、理・美容業では仕入値の上昇に対して顧客離れを懸念して価格転嫁に踏み切れず、経費見直しによる自社努力で値上げ幅の抑制を模索するなど採算悪化に直面しています。また、近隣競合店の新規出店による今後の集客減への懸念も生じており、原材料高への価格転嫁対策と固定客維持に向けた付加価値向上への支援が求められます。

(鳥取県米子市吉津商工会)

依然として仕入価格の上昇は事業経営を圧迫している。従業員を募集している事業所がなかなか見つからない状況が長く続いている。そのため、夜の営業が出来なくなるなど問題は深刻化している。

(愛媛県西予市商工会)

利用料金値上げなしで営業時間を短縮することで最低賃金にはなんとか対応してきたが、さらに最低賃金が増えることが決定したことで値上げをしないと対応できないと考えている。(理容業)

(長崎県新上五島町商工会)